

シンポジウム参加者アンケート調査結果 及び 水平展開に向けたポイント

目 次

1. アンケート調査の実施概要P 3
2. アンケート調査内容P 4
3. アンケート調査結果の概要P 5
4. 水平展開する上でのポイントP13

・下水道展のシンポジウム「水環境ひろば～市民科学と下水道～」 議事概要

・シンポジウム参加者アンケート調査結果

1. アンケート調査の実施概要

【目的】

本アンケートは、プロジェクトの水平展開に向けた情報収集を目的として、下水道の市民科学について理解を深めるために開催した下水道展の併催企画シンポジウム「水環境ひろば～市民科学と下水道～」の参加者を対象に「下水道の市民科学」の導入意向等を伺ったものである。

【実施概要】

実施日 : 平成29年8月3日(水)

対象者 : シンポジウム参加者

アンケートの配布 : 下水道展の併催企画シンポジウム「水環境ひろば～市民科学と下水道～」の会場受付にて参加者にアンケート用紙を配布し、シンポジウム終了後に会場出口にて回収した。

アンケート回収状況 :

- ・配布数 : 94名
- ・回収数 : 52名より回答
- ・回収率 : 55.3% (=52/94)

2. アンケート調査内容

【アンケート調査項目】

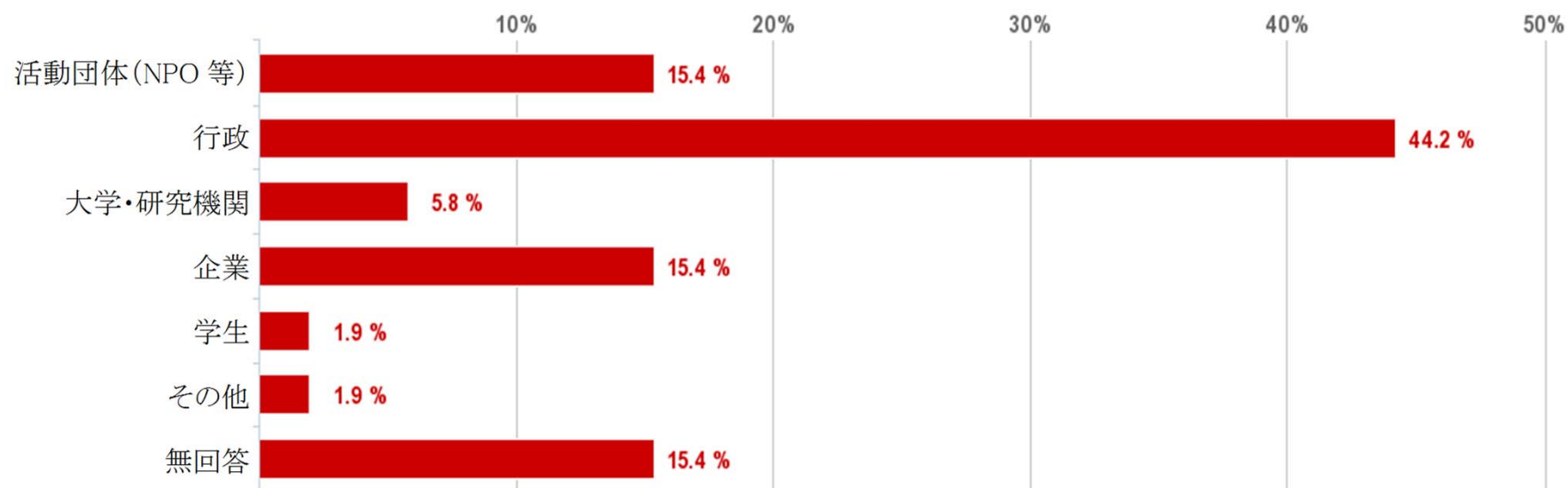
- ・ シンポジウムへの感想
- ・ 「下水道の市民科学」の導入意向
- ・ 導入に必要な支援
- ・ 調査研究の取り組み実態
- ・ 「下水道の市民科学」について深く知りたいこと

3. アンケート調査結果の概要

回答者の属性

・所属

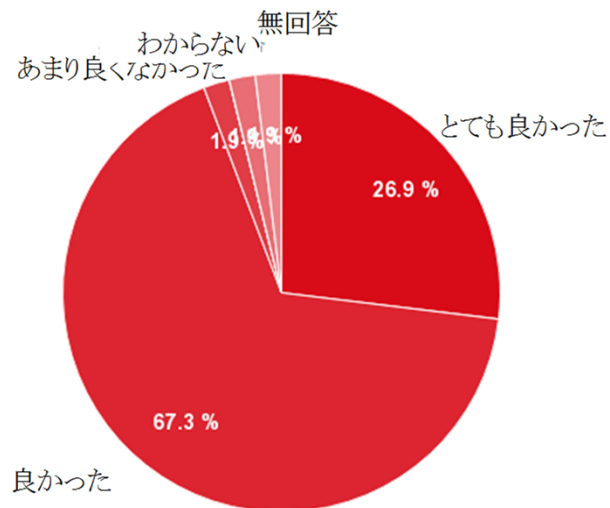
アンケート回答数 (n=52)



- ・アンケートの回収率は55.3%(52名回収/94名配布)であった。
- ・回答頂いた方の属性としては、行政が多く23名(44.2%)、次に、活動団体、企業がそれぞれ8名(15.4%)であった。

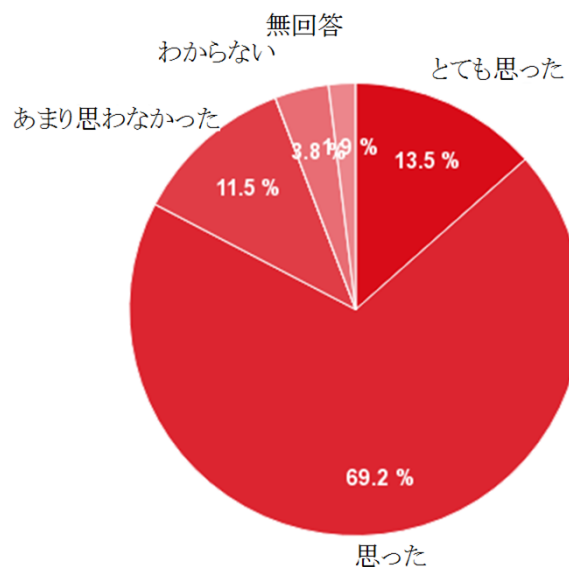
Q 本シンポジウムに参加されて、全体的な感想はいかがでしたか。

アンケート回答数 (n=52)



Q 本シンポジウムに参加されて、「下水道の市民科学」に取り組みたい・参加してみたいと思いましたか。

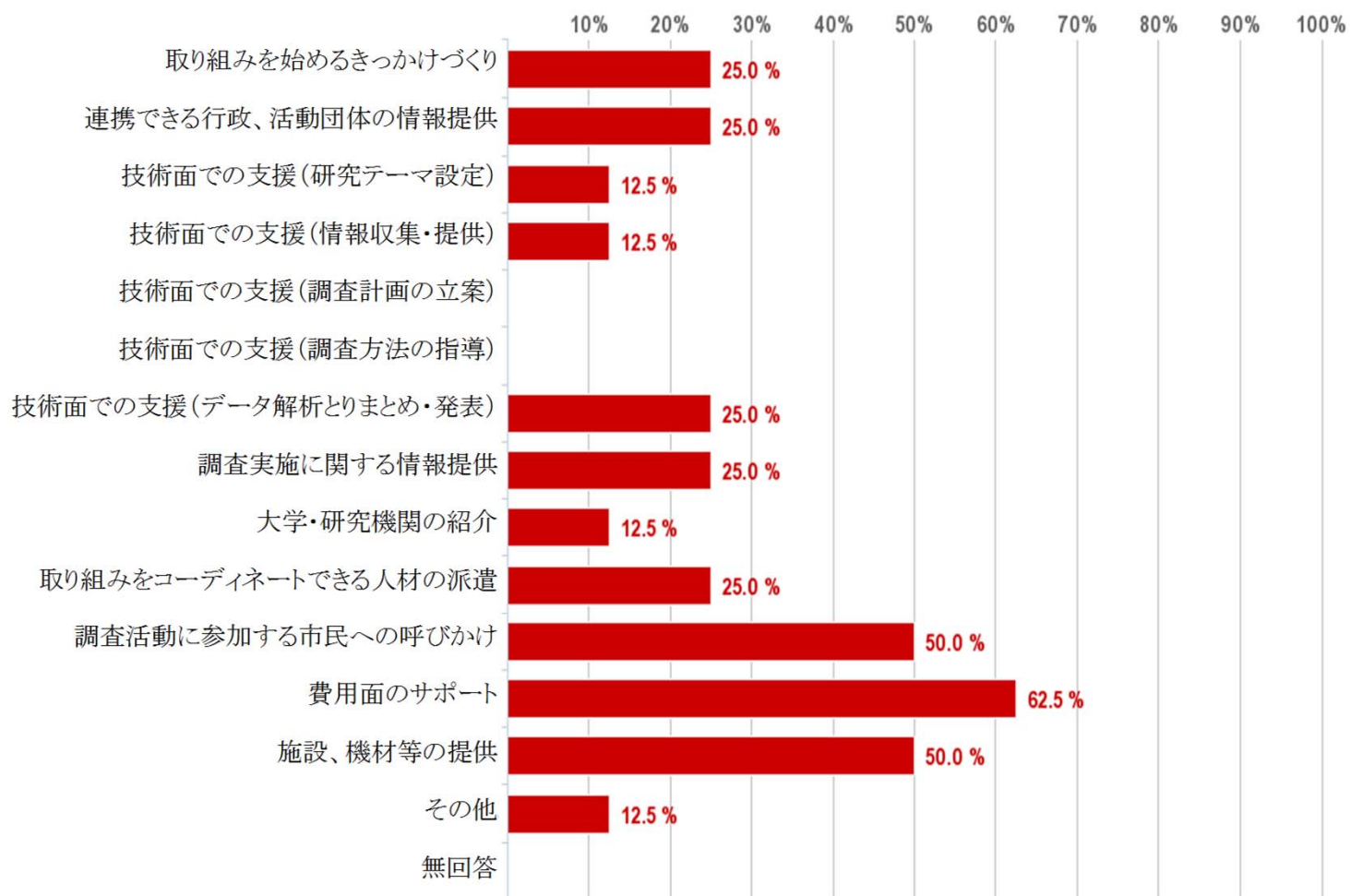
アンケート回答数 (n=52)



- ・シンポジウムの全体的な感想は、9割以上がとても良かった・良かったとの回答だった。
- ・また、「下水道の市民科学」に取り組みたい・参加してみたいと(とても)思うと答えた割合は、8割以上であった。

Q 「下水道の市民科学」に取り組む・参加する上で支援が必要だと思うことはありますか。

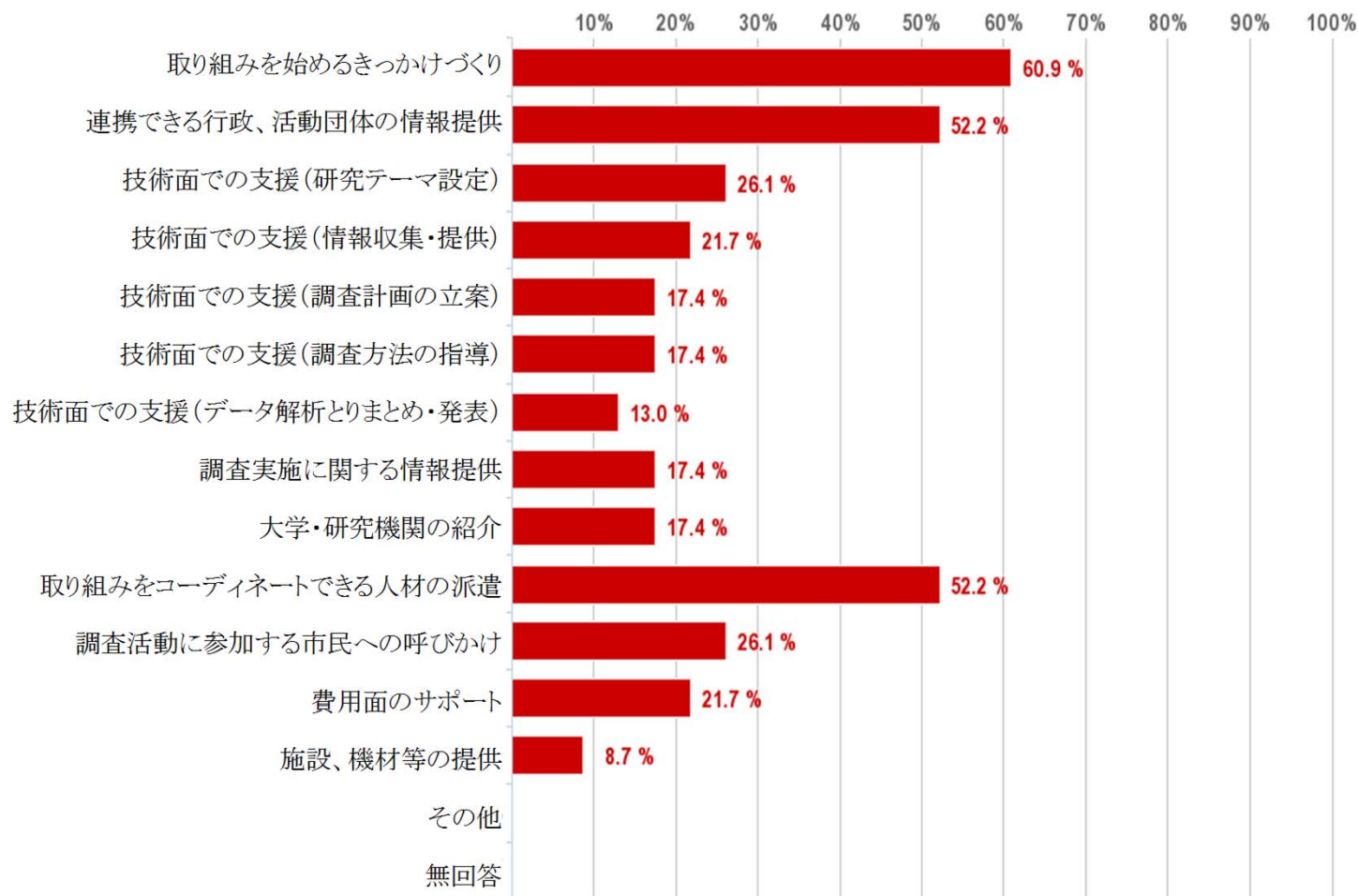
活動団体（NPO等） アンケート回答数（n=8）



・活動団体が支援が必要だと思うことは、「費用面のサポート」、「調査活動に参加する市民への呼びかけ」、「施設、機材等の提供」の回答が多かった。

Q 「下水道の市民科学」に取り組む・参加する上で支援が必要だと思うことはありますか。

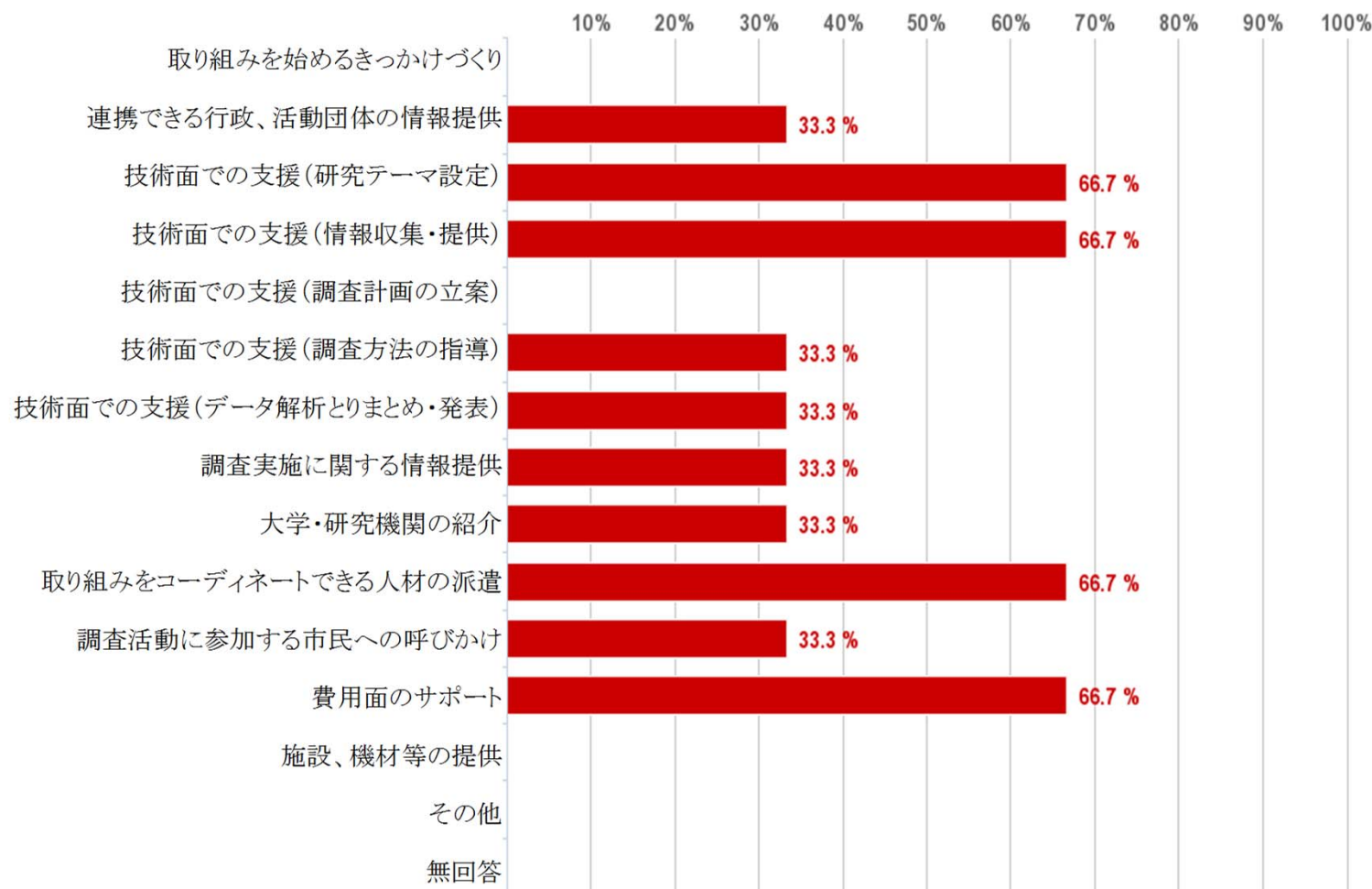
行政 アンケート回答数 (n=23)



・行政が支援が必要だと思うことは、「取り組みを始めるきっかけづくり」、「連携できる活動団体の情報提供」、「取り組みをコーディネートできる人材の派遣」の回答が多かった。

Q 「下水道の市民科学」に取り組む・参加する上で支援が必要だと思うことはありますか。

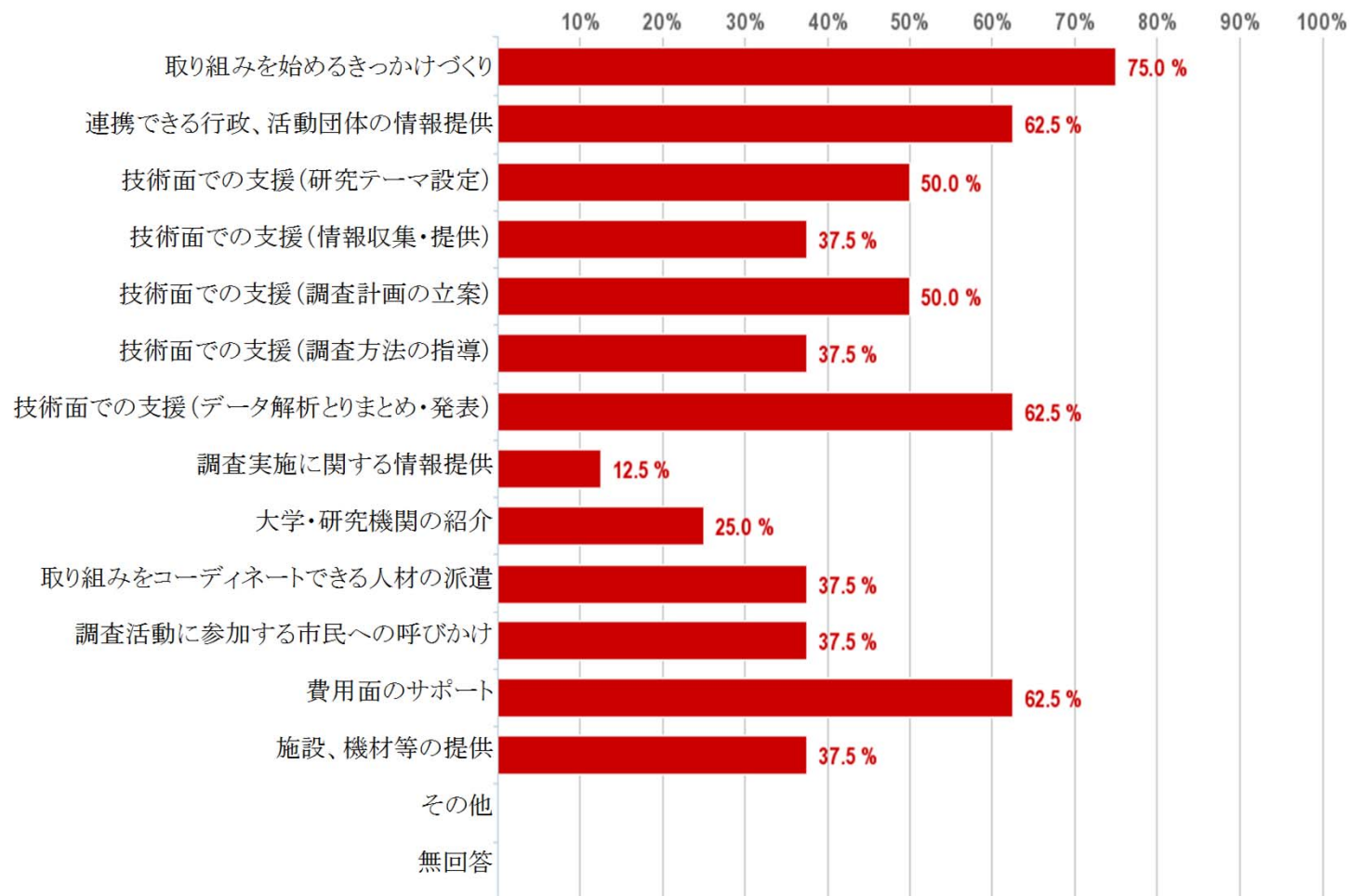
大学・研究機関 アンケート回答数 (n=3)



・大学・研究機関が支援が必要だと思うことは、「テーマ設定」、「情報収集」、「取り組みをコーディネートできる人材の派遣」、「費用面のサポート」の回答が多かった。

Q 「下水道の市民科学」に取り組む・参加する上で支援が必要だと思うことはありますか。

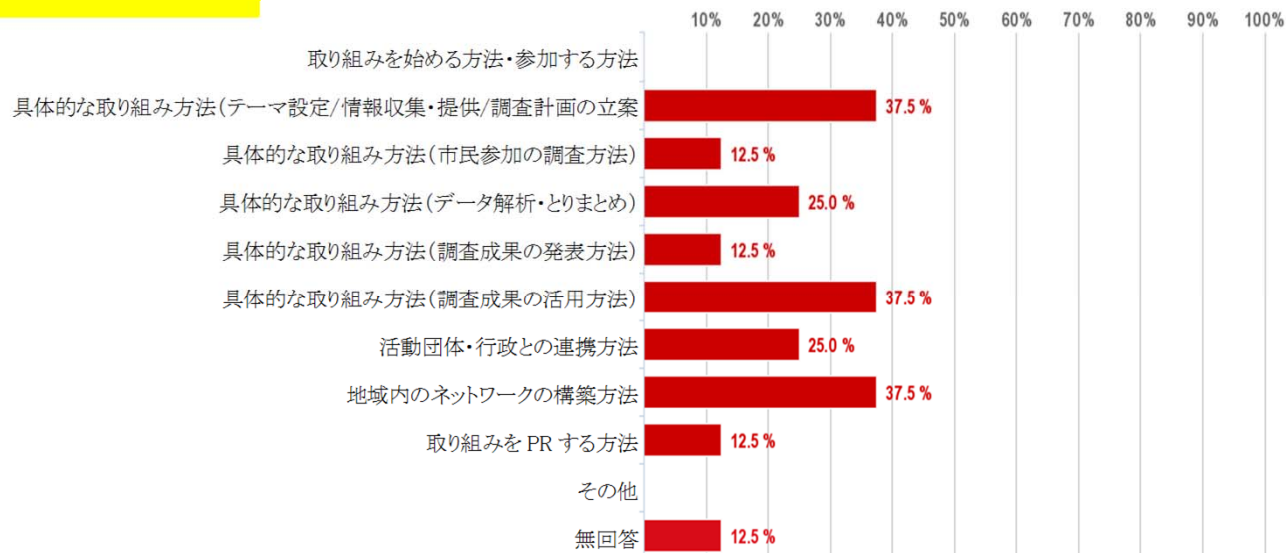
企業 アンケート回答数 (n=8)



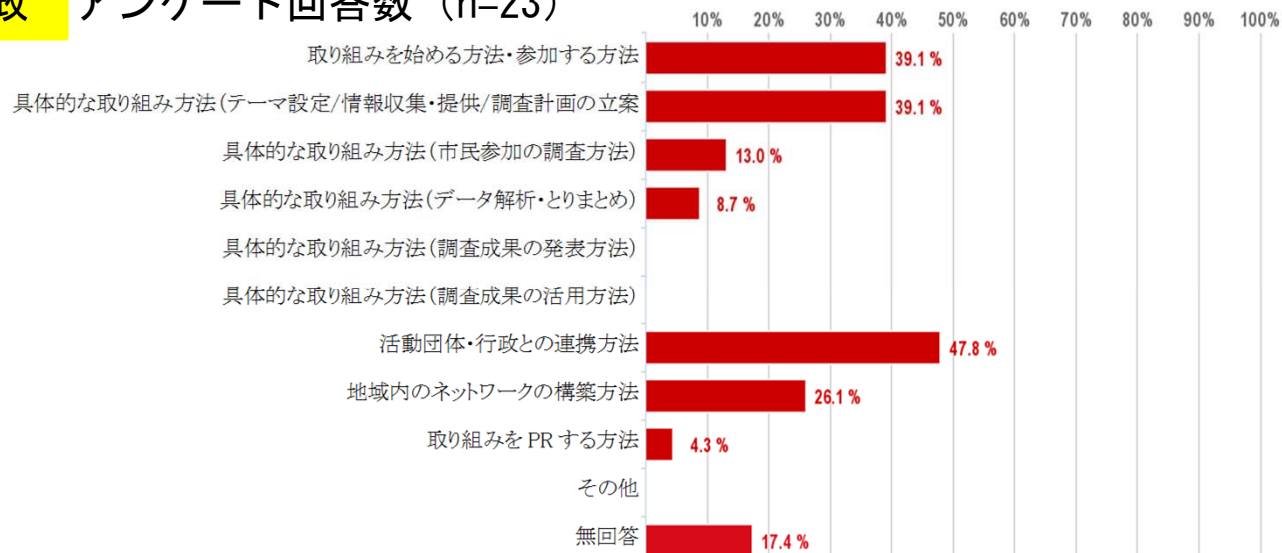
・企業が支援が必要だと思うことは、「きっかけづくり」、「連携できる行政・団体の情報提供」、「データ解析とりまとめ・発表」、「費用面のサポート」の回答が多かった。

Q 「下水道の市民科学」のどんなところをより深く知りたいと思いますか。

活動団体（NPO等） アンケート回答数（n=8）



行政 アンケート回答数（n=23）

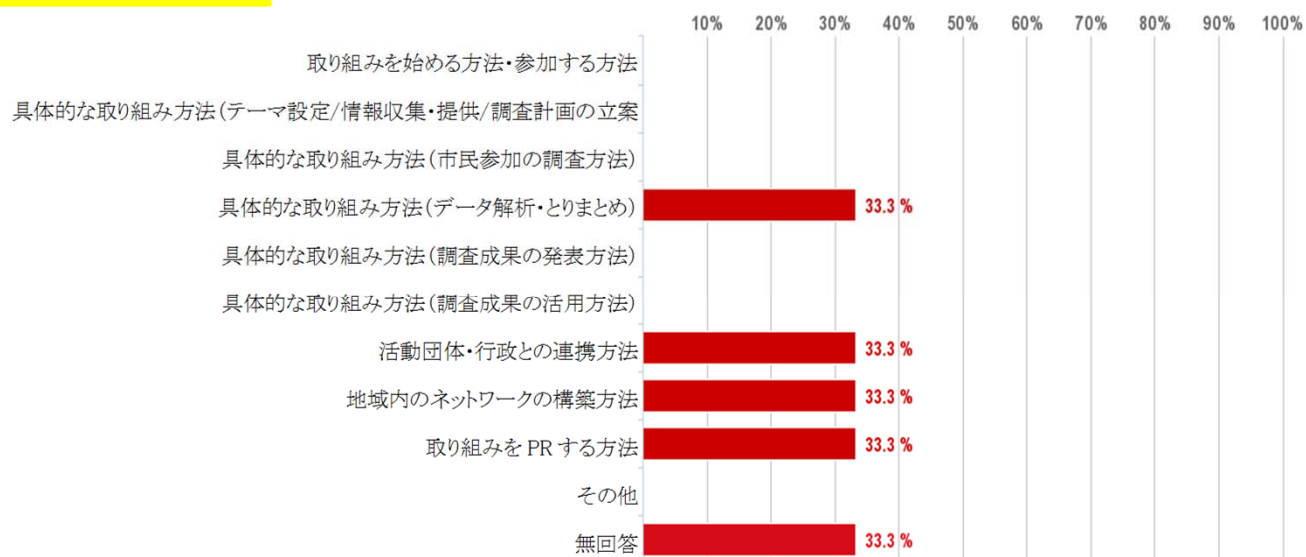


・「下水道の市民科学」でより深く知りたいことは、活動団体、行政ほどの項目も半数以下であり、深く知りたいことは意見が分かれる結果だった。

Q 「下水道の市民科学」のどんなところをより深く知りたいと思いますか。

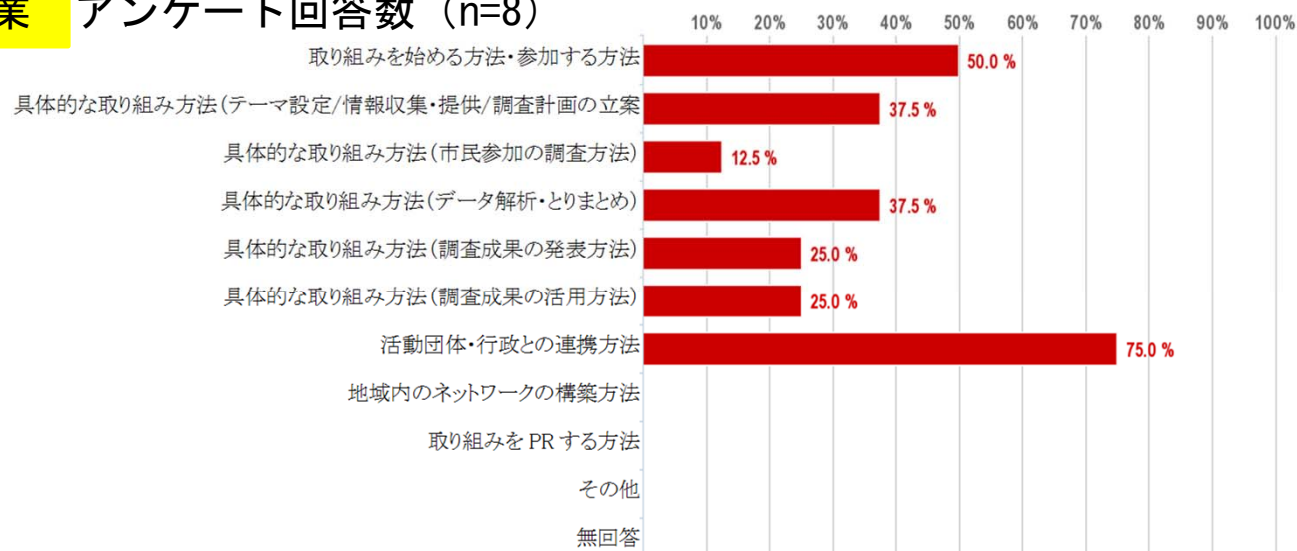
大学・研究機関

アンケート回答数 (n=3)



企業

アンケート回答数 (n=8)



・企業は、「活動団体・行政との連携方法」を、より深く知りたいこととして回答する方が多かった。

4. 下水道の市民科学を水平展開する上でのポイント

① 行政への周知のポイント

下水道展など行政が参加する場でシンポジウム等を開催し、ガイドブックを配布することで、市民科学の有効性を伝える。

(対応案) ⇒ 下水道展のプログラムへの組み込み

② 活動団体への周知のポイント

活動団体が参加する場で、周知する必要がある。(チラシ等の配布から)

(対応案) ⇒ 全国の川の活動団体が参加する場(いい川WS等)、全国の学校関係の団体が参加する会議(NewEducationEXPO等)へ参加、取り組みの説明

③ 市民科学の取り組みを支援するポイント

○行政に対しては、

- ・「下水道の市民科学」を始めるきっかけを提供する。
- ・行政と活動団体との取り組みをコーディネートする調整役の人材を派遣する。

(対応案) ⇒ 継続的にきっかけづくりや人材提供を行うことができる体制構築

- ・「下水道の市民科学」のニーズの高い活動団体の情報を提供する。

(対応案) ⇒ 導入したい自治体において、活動団体のニーズ調査を実施

○活動団体に対しては、

- ・費用面のサポート。

(対応案) ⇒ 基金の設立

下水道の市民科学 水平展開に向けたロードマップ（案）

		2017年	2018年	2019年	2020年
市民科学の周知		行政、活動団体への説明による周知			自主的な普及拡大
普及の加速化に向けた検討	先行自治体 横浜市	更なる展開の検討、試行		取り組みの継続・展開	
	モデル地区	導入支援の試行		更なる展開、取り組みの継続・展開	
支援体制の検討		支援体制、仕組みづくりの検討			
支援体制の構築	資金面の支援		体制構築に向けた検討		新たな基金の設立
	水平展開の推進支援		体制構築に向けた検討	※協議会の設立	継続的な水平展開
計画区分	~2016年 ・立上げ、先行的取組 ・ガイドブック作成	短期的な取組 市民科学の周知、支援体制の確立、 成功事例の早期増加			中・長期的な取組 全国展開

※協議会の役割：きっかけづくり、人材提供(調整役)、ニーズ調査、知見の共有化

下水道展'17 東京
水環境ひろば～市民科学の下水道～議事概要

会場:東京ビックサイト会議棟 1階 102号室

2017.8. 3 (木) 14:30～17:00

1. 主催者挨拶:

・国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部 流域管理官 岡本誠一郎氏

2. 基調講演

「市民科学のめざすものは」

小堀 洋美氏 東京都市大学 特別教授

3. 事例発表

○「市民科学を通じた地域環境に対する下水道の認識向上」

ー中学生による地域の生物生息状況と下水道の関係調査ー

富永 裕之 氏 横浜市 環境創造局 政策調整部 下水道政策調整担当課長

○「アユは河川の健全な水循環の象徴」

菅谷 輝美 氏 新河岸川水系水環境連絡会 代表

○「水の学校について」

高橋 正之 氏 武蔵野市 環境部 下水道課 水循環推進係長

○「みんなで決めるなっとく流量」

神谷 博 氏 野川流域連絡会 座長

4. パネルディスカッション

- ・ファシリテータ：阿部 恭二氏（水環境フォーラム 実行委員会 21世紀水クラブ）
- ・サポーター：市川 浩子氏（メタウォーター株式会社）

（パネリスト）

- ・小堀 洋美 氏 東京都市大学 特別教授
- ・菅谷 輝美 氏 新河岸川水系水環境連絡会 代表
- ・神谷 博 氏 野川流域連絡会 座長
- ・富永 裕之 氏 横浜市 環境創造局 政策調整部 下水道政策調整担当課長
- ・高橋 正之 氏 武蔵野市 環境部 下水道課 水循環推進係長
- ・岡本 誠一郎 氏 国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部 流域管理官

<討議内容>

○ファシリテータ

- ・8月1日、2日のNPO・市民団体とのセッションで最も議論されたのは「下水道の市民科学とは何か」であった。
- ・市民と行政が連携し、「よりよい地域のづくり」を達成することが目的である。
- ・行政サイドとしては、「下水道のみえる化」が目的であり、市民との連携によるWIN・WINの関係作りが必要。
- ・まず、市民と行政の連携について議題とし、武蔵野市の高橋様、「水の学校」のきっかけ、市民との連携についてお話下さい。

○高橋氏

- ・下水道は道路事業のように目に見えるものでなく、流れていて当然と思われている。
- ・このため、下水道の更新にあたって、市民も行政もわかっていなかった。
- ・課題として浸水対策（H17）として、雨水対策用の民有地への浸透枿の設置や下水道の更新に莫大な予算がかかること、下水道使用料を見直が必要があるが、現在と未来の使用料に差が生じないように平準化する必要がある。
- ・水の学校を行うことで、下水に限らず水の循環に関する学校を開催することで、少しでも下水道のことを知ってもらうことが、きっかけになっている。

○ファシリテータ

- ・行政との連携のきっかけについて、菅谷氏様先ほどの発表では精力的な市民活動について、紹介していただいたところですが、行政との連携のきっかけについてお話お願い致します。

○神谷氏

- ・20数年前には、落合川などの河川改修について行政と市民との考えの違いがあり、行政と対立したことが出発である。
- ・ただし、いずれも「よい河川を作る」ことに関しては同じ思いであった。そういったこ

とから、地図でも示したように、国土交通省とのパートナーシップが築かれ、連携ができている。

- ・荒川の調査において、市民が船や漁具を使って魚類の調査を行う場合、東京都においては水産の縛りがあります。しかし、東京都から特別採捕許可書が発行され、しっかりしたデータを取れば大学の先生も協力していただいた。
- ・市民の活動には限界があり、市民と行政が連携することにより、いろんなことができるようになることを多くの人に知っていただきたい。

○ファシリテータ

- ・国土交通省の岡本様、市民との連携についてお話していただければと思います。

○岡本氏

- ・高橋氏の話にもありましたように、下水道は見え難い。
- ・アンケート調査では、20代～30代の若者や女性の下水道への関心が非常に低く、同じように河川でも子供や市民の「川離れ」が進んでいる。このままでは、「水」に対して誰も関心を持たなくなる危機感がある。
- ・一方で行政サイドからの発信だけでは難しく、市民と連携した取組として「市民科学」を使った取組についてパンフレットを作成や、トップランナーとの連携などを実施している。

○ファシリテータ

- ・行政にとって「市民科学」の効果は少ないと思います
- ・行政向けガイドブックのP5を参照下さい。
- ・行政の効果としては、「下水道のみえる化」といえますが、横浜市の事例は大変進んだ事例と考えます。富永様、取組の接点、苦労したことについてお話をお願い致します。

○富永氏

- ・当初、下水道のみえる化を考えて、市民との連携について川の団体等とも接触したが、なかなかうまくいかなかった。
- ・横浜市の部署は下水道の他、公園や公害関連があり、その中でトンボ調査を行っている部署から、舞岡中学校と知り合ったのが経緯である。
- ・現在水平展開を考えており、プラットフォーム化を計画している。今後、人が変わっても継続される取組としたい。

○ファシリテータ

- ・野川流域連絡回の神谷様、市民を実践的な取り組みに巻き込んで、どんな良い地域づくりに発展させたのか、詳しくお願いします。

○神谷氏

- ・市民を巻き込んでではなく、市民が巻き込んでいる。市民が主体の取組である。
- ・東京都やコンサルも入っているが、市民が中心である。
- ・市民には川市民、下水市民、雨水市民などその状況によってその意味は異なると思う。

○ファシリテータ

・ここで小堀先生に「下水道の市民科学がもたらす期待する効果について」お願い致します。

○小堀氏

- ・21世紀下水道は水循環を担うだけでなく、多様な機能があると思います。
- ・下水道で窒素・リンなどの栄養塩を除去しすぎると有明海などではのりの養殖に影響がある。
- ・このため、秋から春は規制を越えて栄養塩類の放出を行い、それ以外は規制を従来よりも厳しくしてトータルとして基準を満たすような、運転が可能であることに驚いている。
- ・「下水道の市民科学」の最終目標は市民・行政・研究者が楽しく連携し、新しい知見を得ることにより新しい価値の創造していくことである。下水道の様々な機能がまだまだ発掘されていないため、「下水道のみえる化」よりも「下水道のみせる化」が必要だと考える。

○ファシリテータ

・テーマ設定について、菅谷様になぜ下水道着目できたのか、テーマ設定と情報収集についてお願い致します。

○菅谷氏

- ・水質調査を行っている武蔵野台地は硝酸値が高いことや、荒川等ではアンモニアが変化しているといった変化がみられた。
- ・分析は法政大学に協力していただき、データは行政からも頂いている。
- ・多摩川ではアンモニアを下げることで様々な生きものが生息するようになり、効果があることがわかった。
- ・また水温の話もあったように、荒川は水温も高い。下水道の排水の水温を20℃以下に下げることにより、東京のクールダウンや荒川の生物の生息にもよい影響があると考えます。
- ・これらのことを自分たちで調査し、結果を公表していくことで、いろいろな研究者も係ってくれるようになる。いろいろな方が知恵を絞ってより良い河川環境にしたいと考える。

○ファシリテータ

・神谷様、市民参加の方法や成果の公表についてお話お願いします。

○神谷氏

・成果の公表について、外部としては「いいかわづくりワークショップ」での参加したり、河川関係や地下水関連の雑誌に成果を発表したりしている。

○ファシリテータ

・行政が支える仕組みとして、横浜市の富永様お願い致します。

○富永氏

- ・行政側としては図面や下水道のデータだけでなく、「環境科学研究所」などで分析されたデータの貸与などを考えている。
- ・最近の関心時は水温で、河川の上下流で体系的に取ったデータはない。下水道で水温を

下げる効果がどれくらいあるのかを皆さんの取組で解決できればと期待している。

○ファシリテータ

- ・若い担い手等取組の持続性について、高橋様お願いします。

○高橋氏

- ・「水の学校」は5年間の事業でH26より行っているため、来年度が最後となる。
- ・現在、「水の学校サポーター」の方が50名ほどおり、本年度もそれらサポーターの方に手伝って頂いたり、意見を聞きながら講座を行っている。
- ・来年度までには100名程度のサポーターの育成を考えている。
- ・今後は、市独自の啓発活動、サポーターと協力した啓発活動、サポーター独自の啓発活動の3本立てで、進めて行くことを考えている。
- ・下水道課は環境部に属しているが、エコプラザを計画しており、下水道だけでなく、ゴミ、エネルギーといった部署とも連携した啓発活動のあり方を検討している。
- ・若い人の参加について、サポーターもほとんどが60歳代であり、問題としている。対応として小中学校を対象に、例えば雨水タンクを小学校に設置し、朝顔の水やりに雨水を使うことの意義について、出前講座などを実施し、小中学生のみならず、親御さんにも波及するよう取り組んでいる。

○ファシリテータ

- ・NPOセッションにて下水道の市民科学について議論している。議論の行方について佐山様お願い致します。

○佐山氏

- ・主に河川で活動するNPOの方に市民科学どのように取り組むか問題点、課題点を議論した。
- ・4つの観点が必要であるとの結論となった。①簡易法であっても精度ある調査方法が必要：精度管理②調査の継続性③次世代への引継ぎ④資金の確保となっている。

○ファシリテータ

- ・NPOセッションではどのような目的なのか、アカデミックを目的に行うのか、市民のために行う目的のかなどの意見がありました。会場の方でご意見ありましたらお願い致します。

○会場：長谷川氏

- ・一昨日、プレゼンさせていただいたのですが、市民科学に下水道がつくと意味が違ってくるのではないかと。
- ・「下水道の市民科学」の目的が「よりよい地域づくり」であるなら、下水道における市民科学は、行政と市民で何ができるのかが重要である。
- ・今回の発表は行政から2件、市民から2件とバランスのとれたレイアウトになっている。

- ・「下水道の市民科学」を行政サイドから見た場合、「下水道のみえる化」や広報といったことだが、基本の目的は健全な下水道事業を永続的に運営することであり、そのために市民の協力が必要である。
- ・一方、市民側として何を期待しているのかということに関して、下水道料金を今後どれくらいなら払えるのか、また何に対して満足できるのか、またペイできるのかといったことだと思う。
- ・目的は、成果を発表する等は目的ではなく、あくまでも手段であり、最終目的は「よりよい地域づくり」であるべきだと考える。

○ファシリテータ

- ・それ以外にご意見・ご感想、ご質問ありますか

○会場：奥田氏（一般社団法人ウォーター）

- ・下水道を理解して欲しいのはわかるが、理解した後、一生活者として、理解しただけ終わるのは物足りないと考える。
- ・次にどのような行動をとればよいか考えた場合、一人の行動で下水道を長持ちさせることができるなど下水道の持続的な運営や社会的コストの低減に貢献しているような活動があればよい。
- ・しかし、生活者として下水道を持続させるために何ができるかを悩んでいるところである。個人的な活動として、お皿の脂を拭き取ってから洗うことや雨水を貯めるなど行っているが、選択肢が少ない。何か貢献できる選択肢があれば教えて欲しい。
- ・ガイドブックを見ると、市民科学、市民活動を持続させるために資金を調達することが重要だとしているが、具体的なことが書いていない。市民科学、市民活動を持続させるために皆さんがどのようなことを行っているか聞かせて欲しい。

○ファシリテータ

- ・ただ今の質問に対して小堀先生お願いできますか。

○小堀氏

- ・資金調達に関しては、行政の助成金等を担当している方の方が具体的な方法があるかと思いますが、助成金がなかなか得られないという問題は、事務局の企画者に対する助成がないため継続的に助成を受けることが難しいことにあると考える。
- ・このため、行政や企業の助成の規制を緩めてもらうことが現実的な方法だと考える。

○富永氏

- ・発表では触れませんでしたが大きな課題であると考えている。
- ・助成については、トップランナーを支えることや裾野を広げるためには、勉強していか

なくてはいけないと考えている。

- ・助成や助成制度を行っているが、期間やテーマが偏ってしまっている問題がある。
- ・横浜市は、市民団体の方が利用できる行政や民間の助成金や助成制度をポータルサイトで紹介している。しかし、どれだけ知られているかといった問題や、それらの裾野を広げるために市内の企業のCSRや社会貢献活動が企業の価値を評価する軸となっていることから、それらについても勉強していく必要があると考えている。
- ・理解した後に何ができるのかといった質問に対し、例えば武蔵野市の雨の問題について一人々に考えてもらうということが一つの方法であると考えている。
- ・私事では、先ほどお示した川の水温が上がっている問題で、横浜港の水温も上がっていて、海苔やわかめが冬場の水溫が下がらないと育たないといわれている。
- ・終末下水場の水質基準に水溫を追加すべきといった意見を、行政から意見しても、下水道料金に跳ね返ってしまうこともあるため難しい。
- ・皆様と議論できる場で、下水道にとって必要な仕事なのだ、普及率を達成した後長持ちさせることだけが仕事でなく、環境をよりよくしていく役割を果たしていないといったことを意見・議論されることを期待している。

○ファシリテータ

- ・回答になったかはわかりませんが、時間がないため、ここで小堀先生と岡本様に一言づつお願い致します。

○小堀氏

- ・4つの事例は大変すばらしい事例であった。
- ・下水道の市民科学は地域住民、行政のあり方、川の歴史、地域の伝統などにより様々あり方がある。ただし、市民科学は科学的的手法により取り組むことにより、間違った方向での取り組みとならない手法であると考えている。
- ・市民科学を持続的に行うための最も重要なキーワードは市民が「楽しく、有意義にできる」ことだ。
- ・若者や若いお母さんの参加のため、スマートフォンを使った取組も必要だと考える。

○岡本氏

- ・フローアからのご意見で「よりよい地域づくり」が目的であるや下水道を理解するだけでは物足りないといったことは、行政と市民の相互の「気付き」であると考えている。
- ・具体的な例では、神谷様からの話で、下水道の立場では合流式下水道の場合、雨水と汚水を処理場に入れるとオーバーフローする問題がある。しかし、雨量の流出量を0にしながら、雨量のわずか2mmを浸透できれば、降雨時の河川の状況は劇的に変わることは、下水道関係者なら誰でも知っている。世田谷ダムといった活動が、世田谷区全体広がっていけばどうなるだろうか。
- ・菅谷様からのアンモニアの話に関して、下水道ではアンモニアを硝酸態に換えたり、窒素を除去したりしているところもあるが、諸事情により行っていないところもある。でき

ていない処理場で対応しようとするとお金や手間がかかる。

- 放流先の河川において、アンモニアがアユや魚に影響があるため、市民から実施すべきとの意見ができればどうなるだろうか
- サイエンスで正確に状況を把握していないとなかなか話は進んでいかない。下水道と市民科学は地域づくりに大きな貢献・インパクトを与えると期待している。

以上



事例発表（神谷博氏）



パネルディスカッション

シンポジウム参加者アンケート調査結果

1) 目的

本アンケートは、プロジェクトの水平展開に向けた情報収集を目的として、下水道の市民科学について理解を深めるために開催した下水道展の併催企画シンポジウム「水環境ひろば～市民科学と下水道～」の参加者を対象に「下水道の市民科学」の導入意向等を伺ったものである。

2) 実施概要

【実施日】 平成 29 年 8 月 3 日（水）

【対象者】 シンポジウム参加者

【アンケートの配布】 下水道展の併催企画シンポジウム「水環境ひろば～市民科学と下水道～」の会場受付にて参加者にアンケート用紙を配布し、シンポジウム終了後に会場出口にて回収した。

【アンケート回収状況】

- ・ 配布数 : 94 名
- ・ 回収数 : 52 名より回答
- ・ 回収率 : 55.3% (=52/94)

【アンケート調査項目】 主な項目は以下のとおり。アンケート調査票は巻末資料に添付した。

- ・ シンポジウムへの感想
- ・ 「下水道の市民科学」の導入意向
- ・ 導入に必要な支援
- ・ 調査研究の取り組み実態
- ・ 「下水道の市民科学」について深く知りたいこと

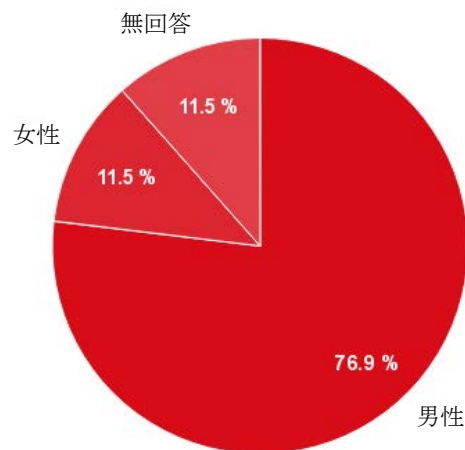
3) アンケート結果

アンケート結果を以下に示す。また、回答結果一覧は表-1 に示した。

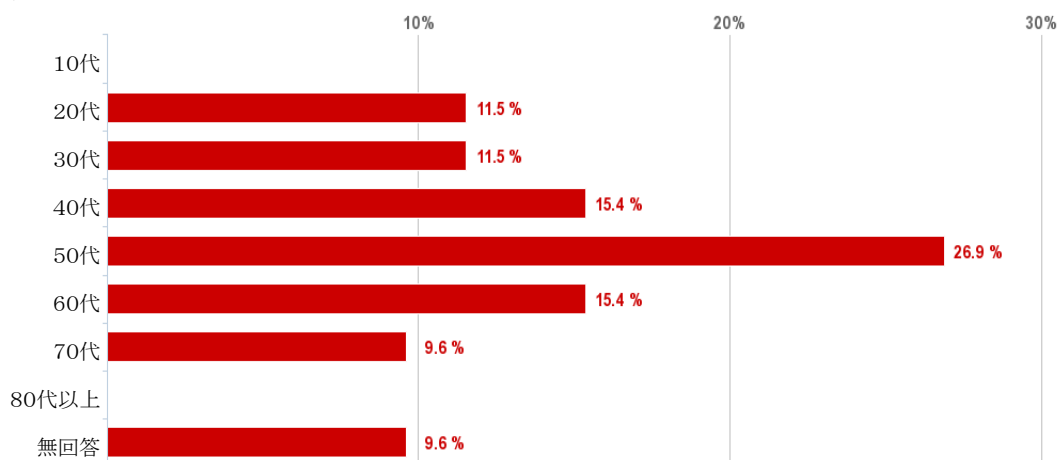
回答者の属性

(n=52)

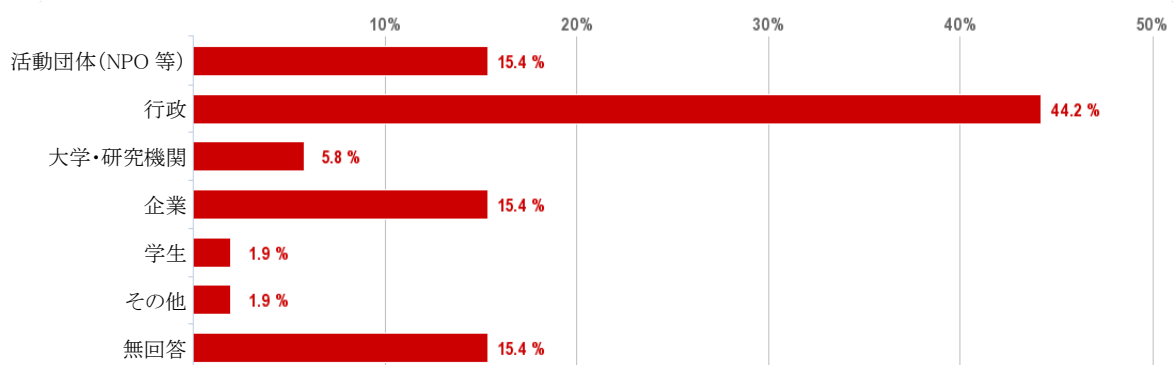
・性別



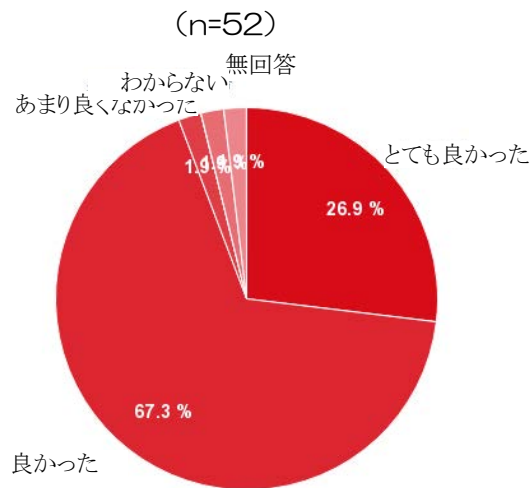
・年齢



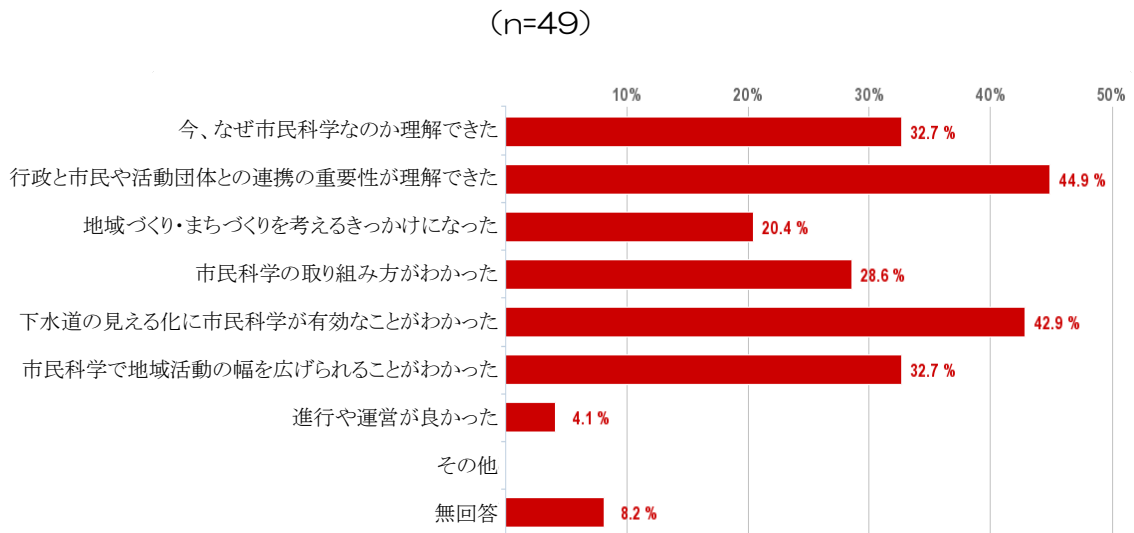
・所属



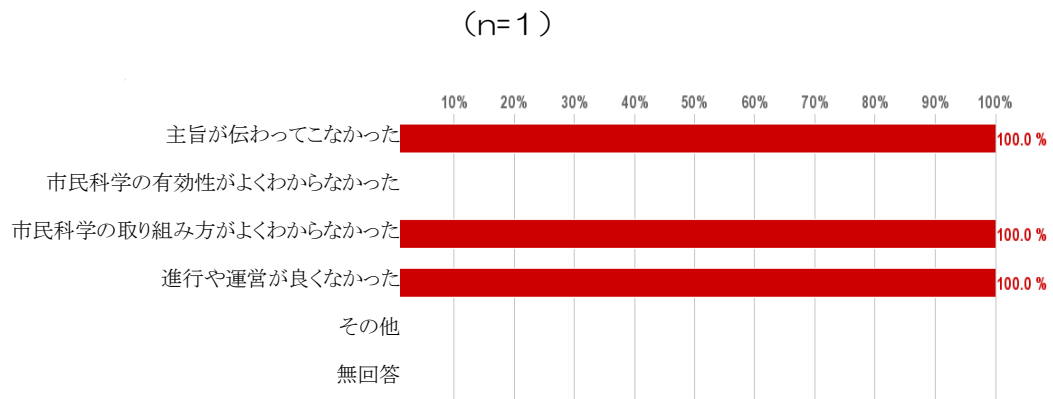
問1 本シンポジウム「水環境ひろば～市民科学と下水道～」に参加されて、全体的な感想はいかがでしたか。



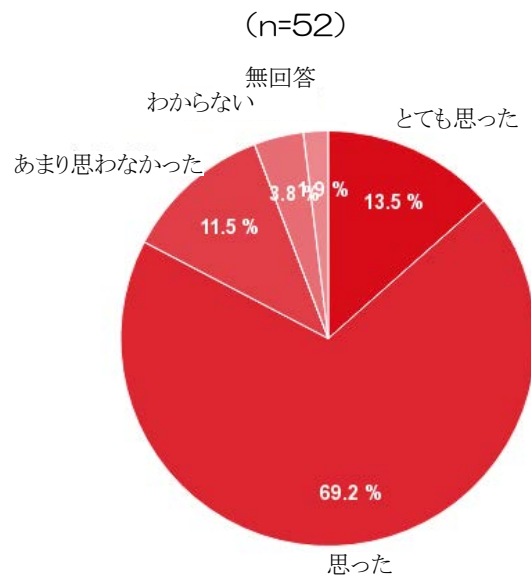
問2 (問1で「(とても)良かった」と考えた方) どんな点がよかったですか。
(複数回答可)



問3 (問1で「(あまり)良くなかった」と考えた方) どんな点がよくなかったと思いますか。(複数回答可)



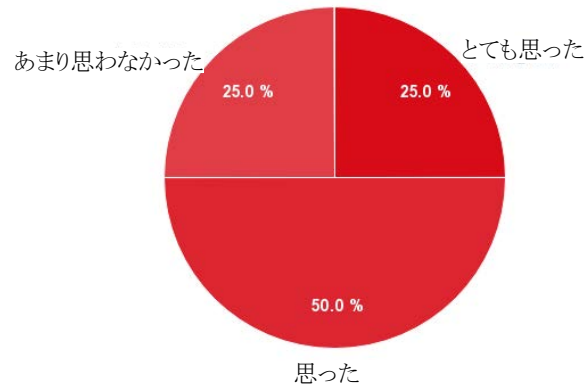
問4 本シンポジウムに参加されて、「下水道の市民科学」に取り組みたい・参加してみたいと思いませんか。



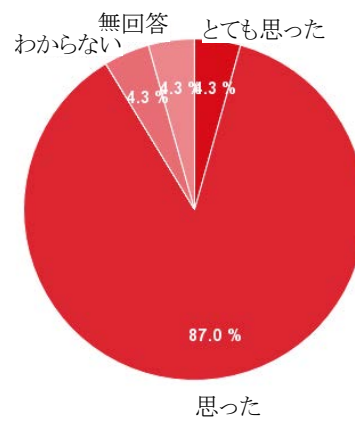
クロス集計

問4 本シンポジウムに参加されて、「下水道の市民科学」に取り組みたい・参加してみたいと思いませんか。

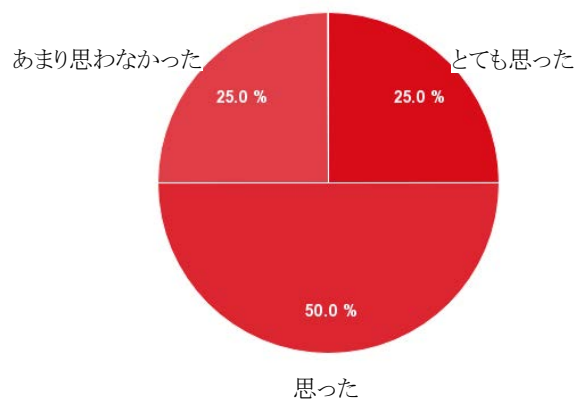
活動団体（NPO等）（n=8）



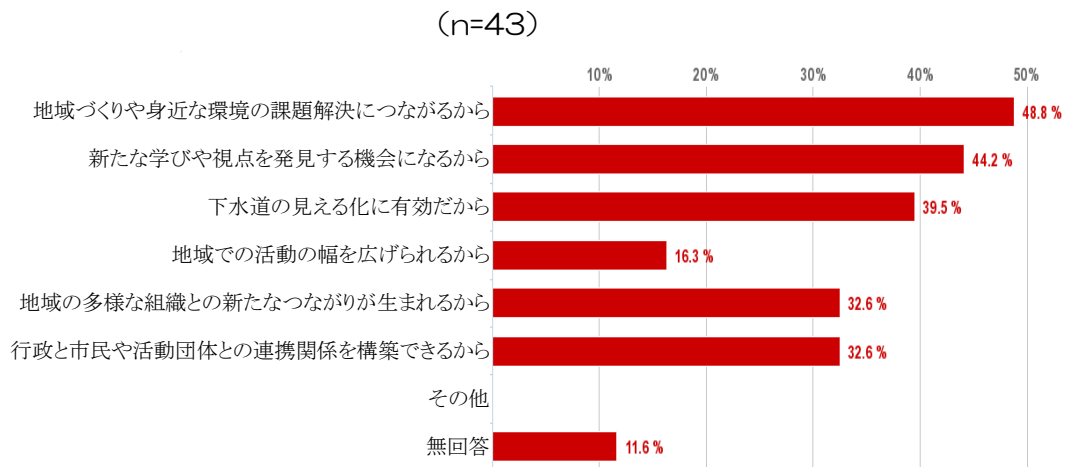
行政（n=23）



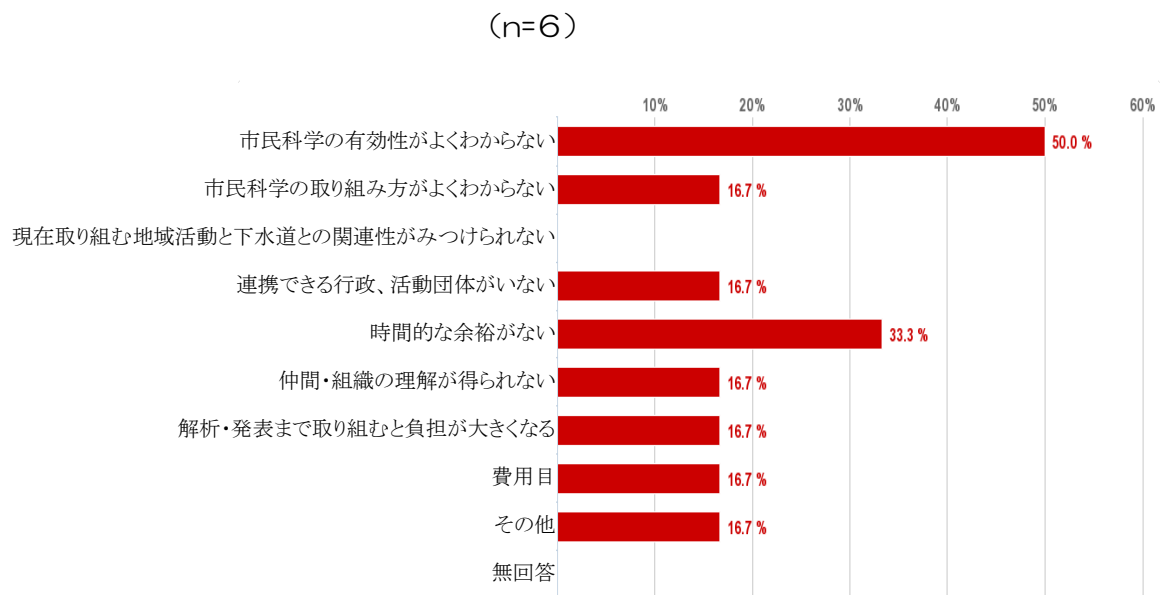
企業（n=8）



問5 (問4で「(とても)思った」と考えた方) どんな点で取り組みたい・参加してみたいと思いますか。(複数回答可)



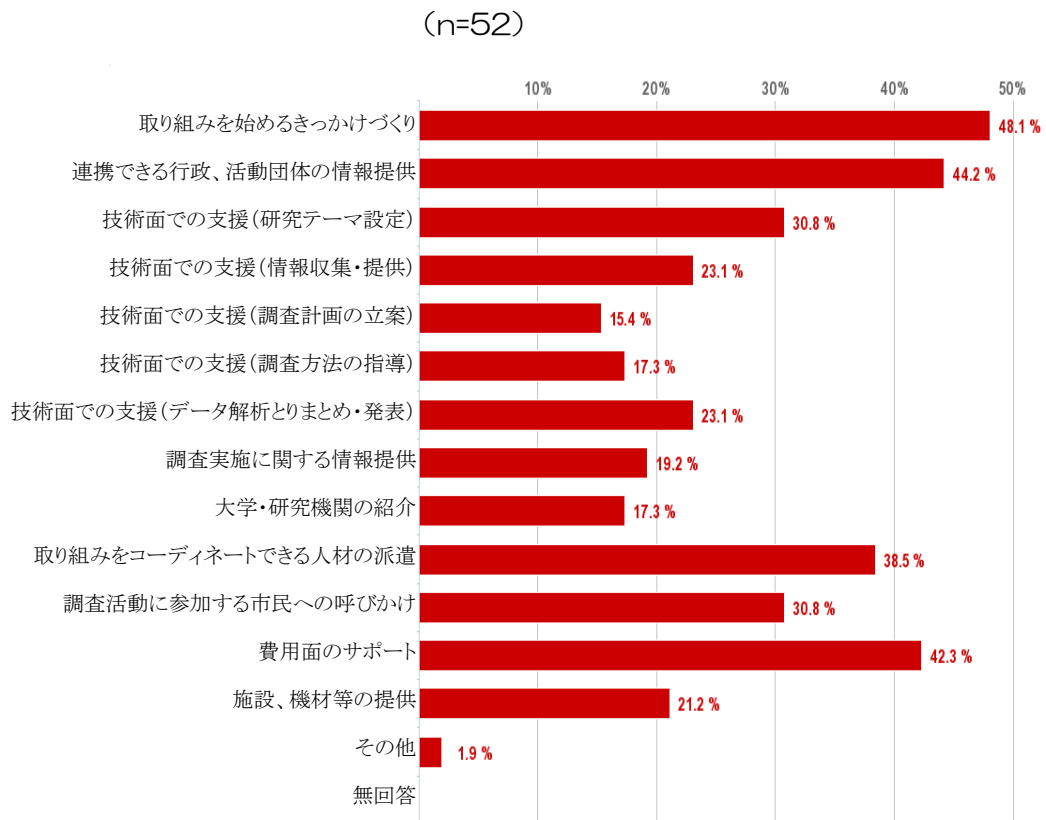
問6 (問4で「(あまり)思わなかった」と考えた方) どんな点で取り組みたい・参加してみたいと思わなかったですか。(複数回答可)



<その他の回答>

・学者、教授の総取りという認識がある。全てにおいて（成果を含め）ボランティアなら意義がある。何かを始めた（処理場の完成等）ときに同時にアクションをとることで、行政・市民の意義の高揚と関わり協働の高まりが得られるだろう。フェアにとりくんで。

問7 「下水道の市民科学」に取り組む・参加する上で支援が必要だと思うことはありますか。どんな点ですか。(複数回答可)



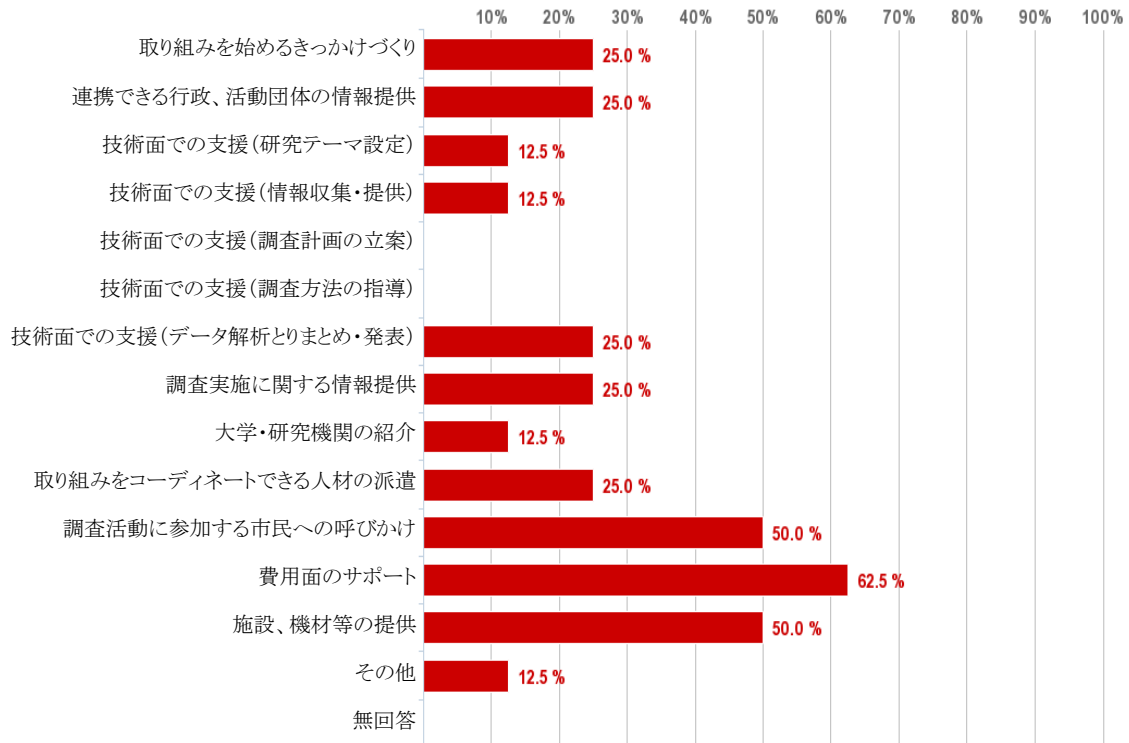
<その他の回答>

- ・地域、水系くらいの単位で取り組む

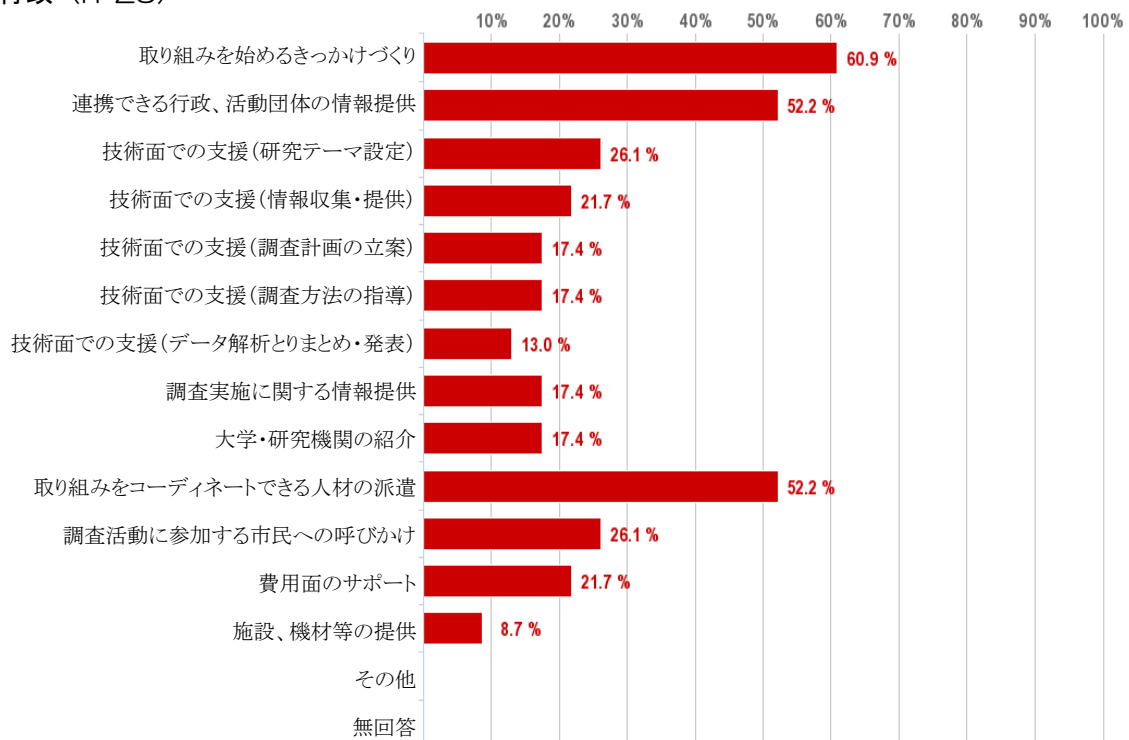
クロス集計

問7 「下水道の市民科学」に取り組む・参加する上で支援が必要だと思うことはありますか。どんな点ですか。(複数回答可)

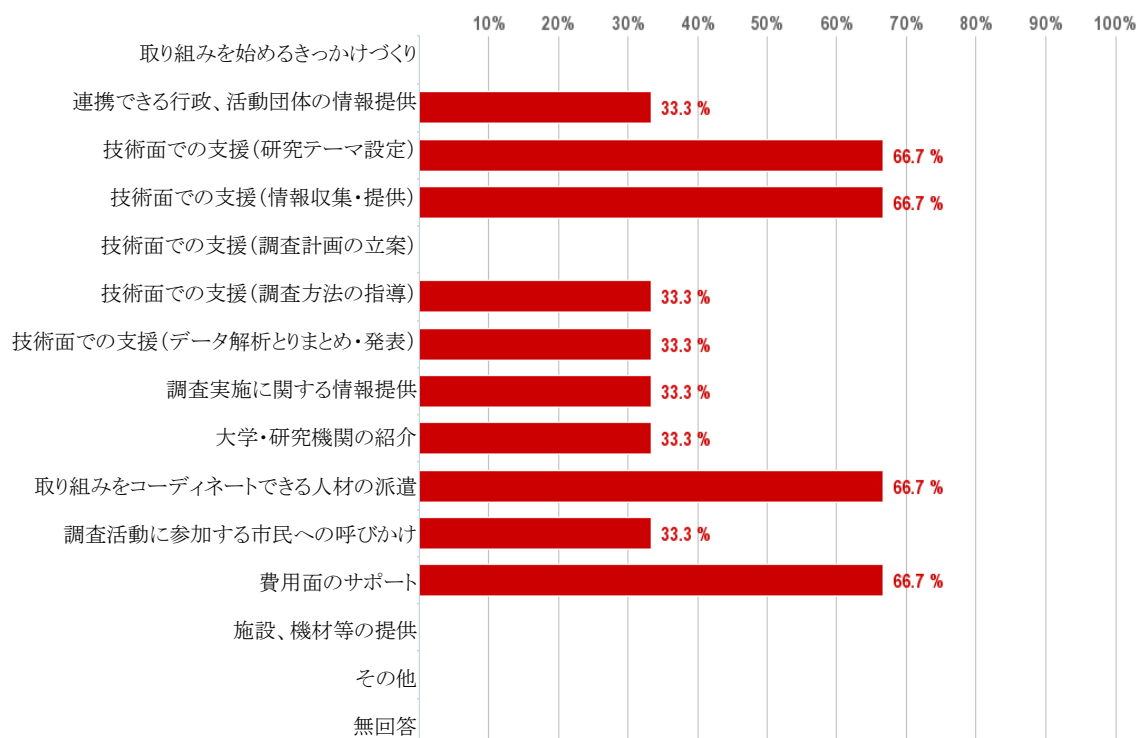
活動団体 (NPO 等) (n=8)



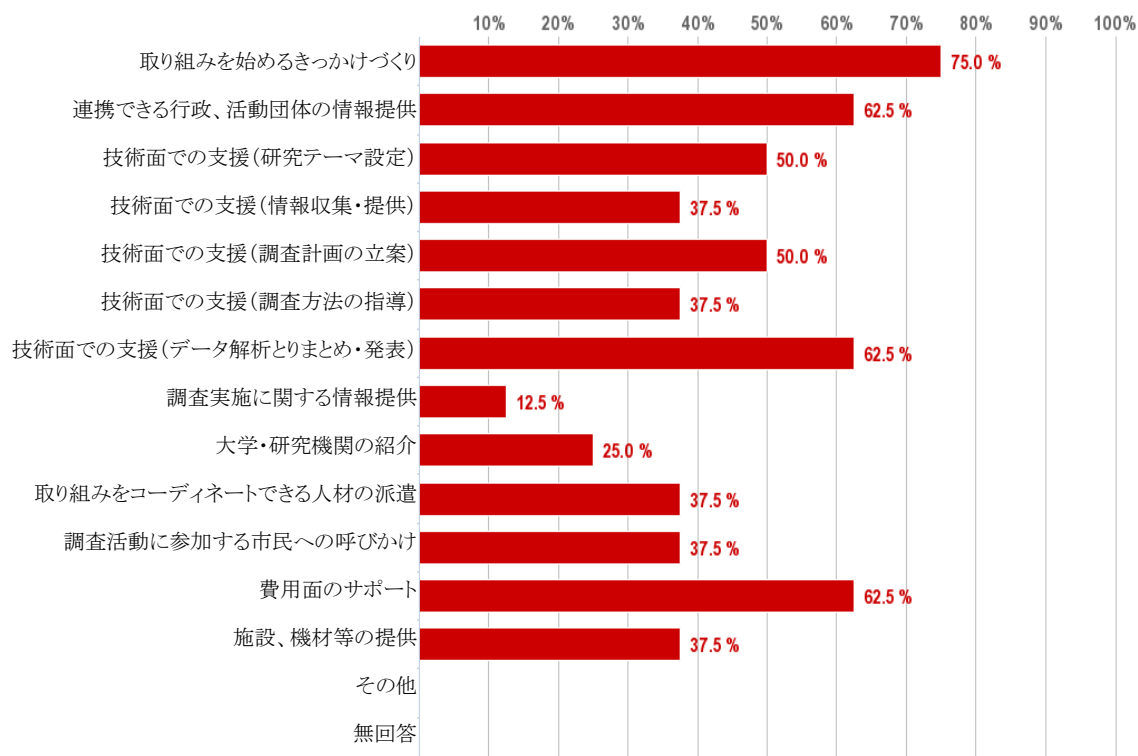
行政 (n=23)



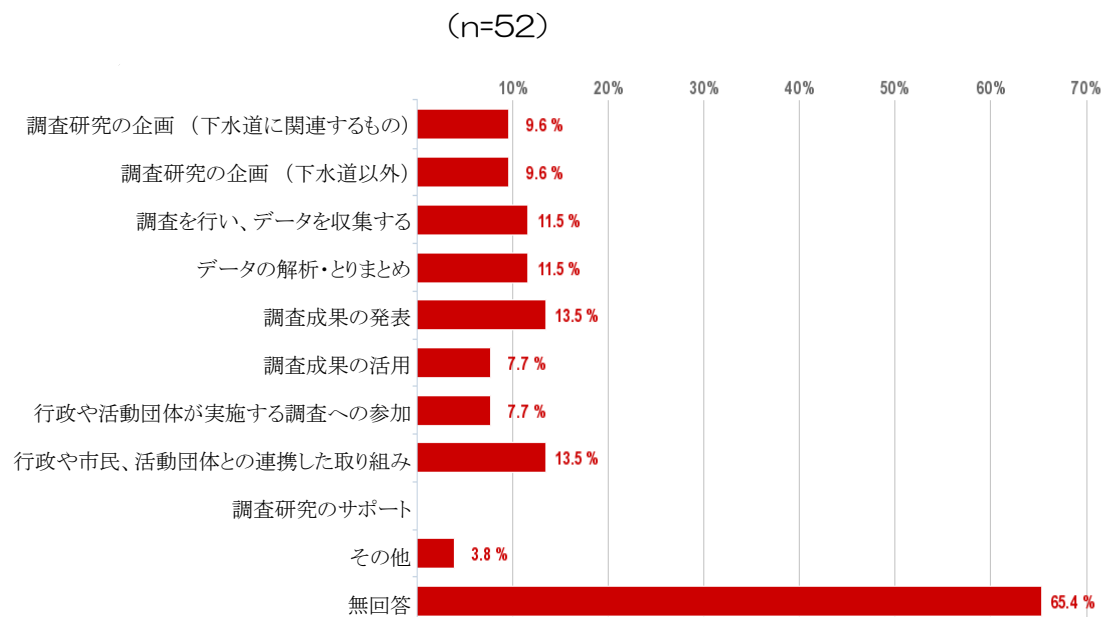
大学・研究機関 (n=3)



企業 (n=8)



問8 下水道の市民科学を構成する主な取り組みのうち、既に行っている取り組みはありますか。(複数回答可)



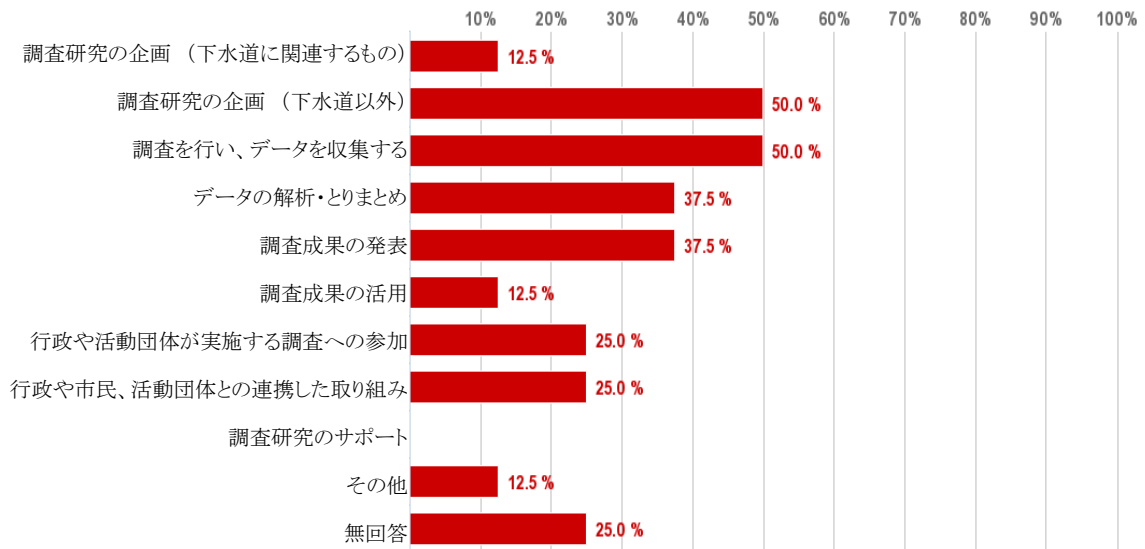
<その他の回答>

- ・排水処理（浄化槽を平行的に）
- ・行政と高校の授業の連結（県立大師高校）

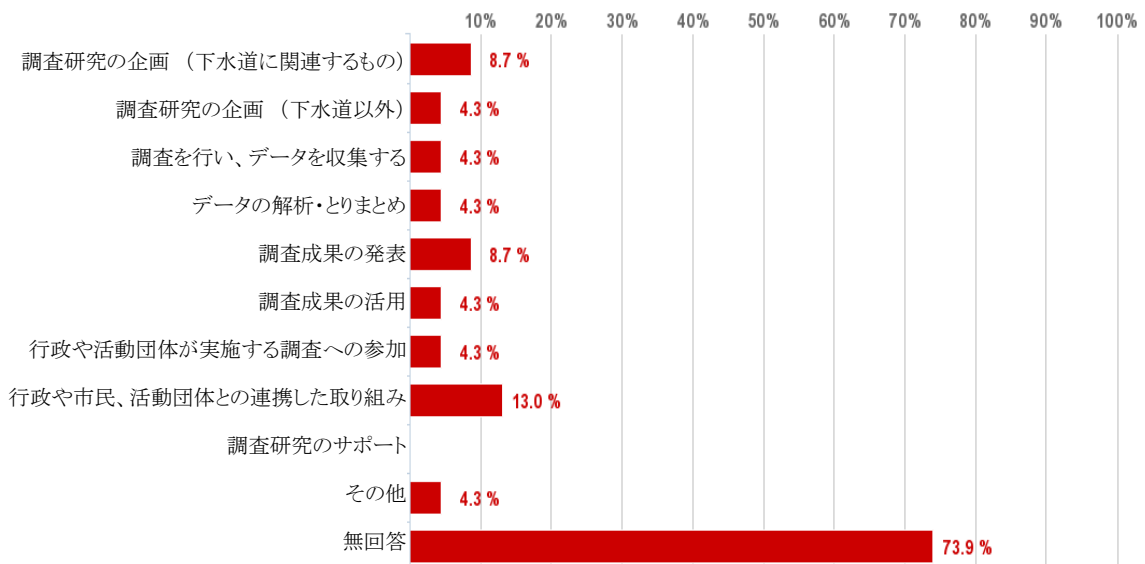
クロス集計

問8 下水道の市民科学を構成する主な取り組みのうち、既に行っている取り組みはありますか。(複数回答可)

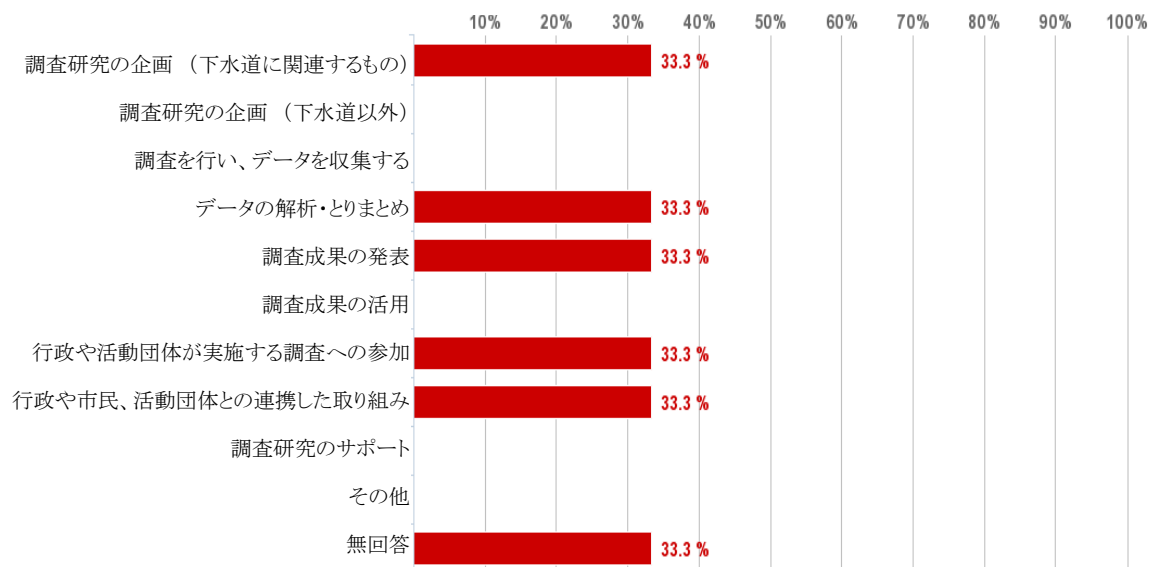
活動団体 (NPO 等) (n=8)



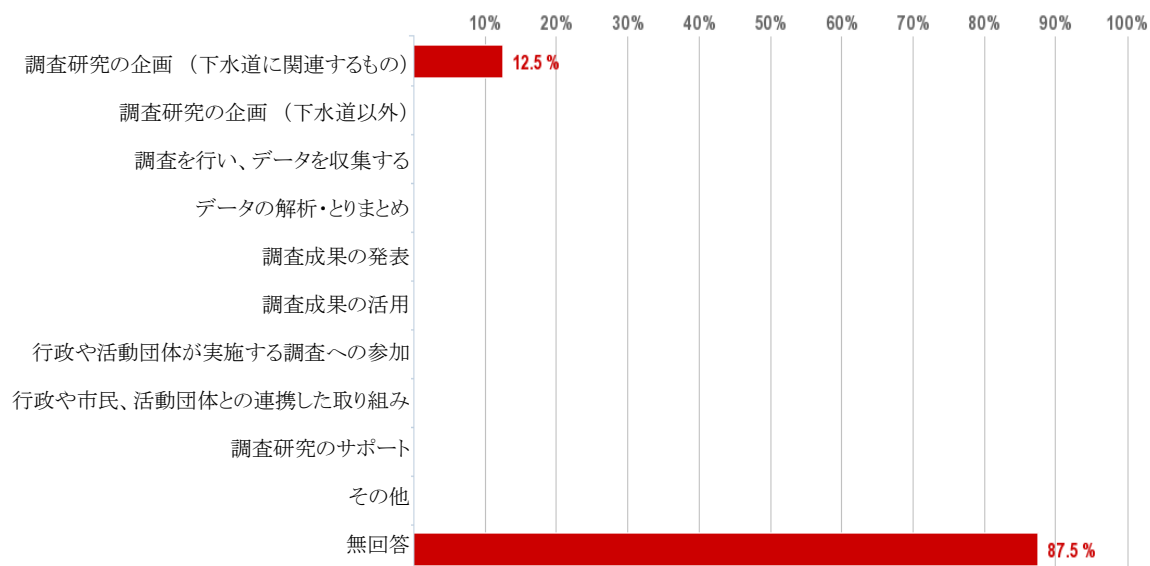
行政 (n=23)



大学・研究機関 (n=3)

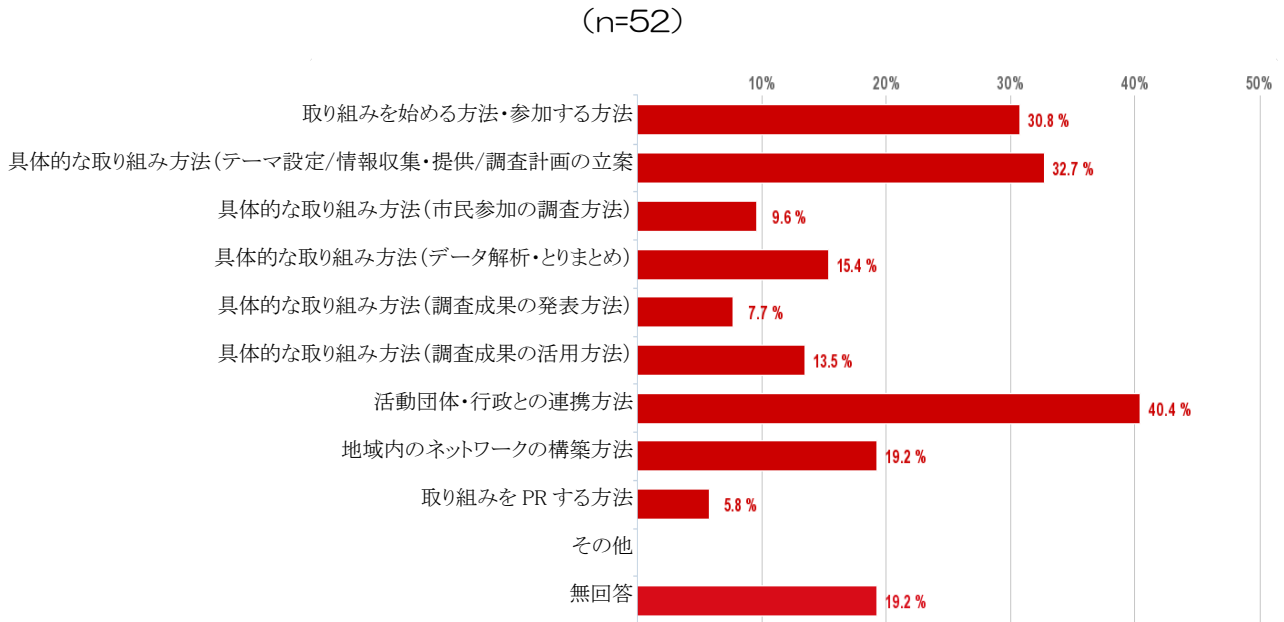


企業 (n=8)



問9 「下水道の市民科学」のどんなところをより深く知りたいと思いますか。

(複数回答可)

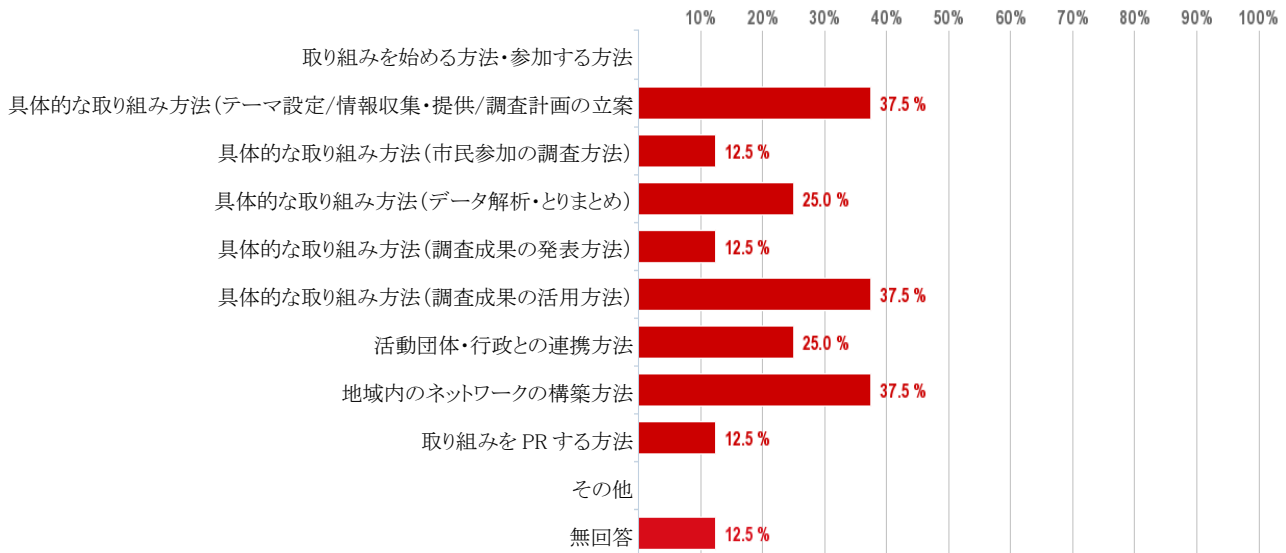


クロス集計

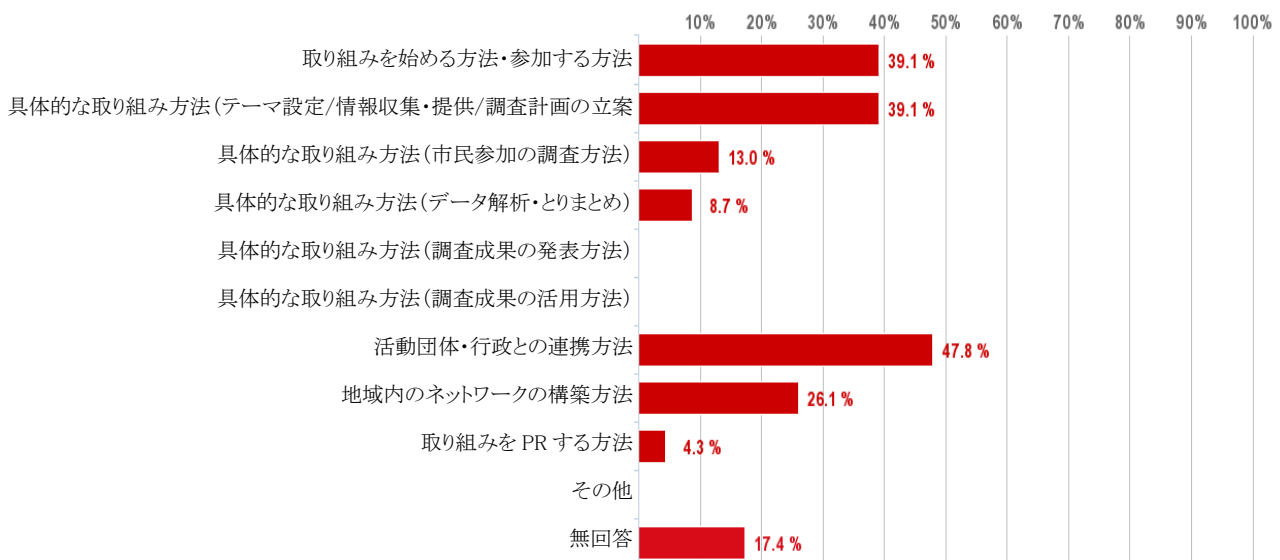
問9 「下水道の市民科学」のどんなところをより深く知りたいと思いますか。

(複数回答可)

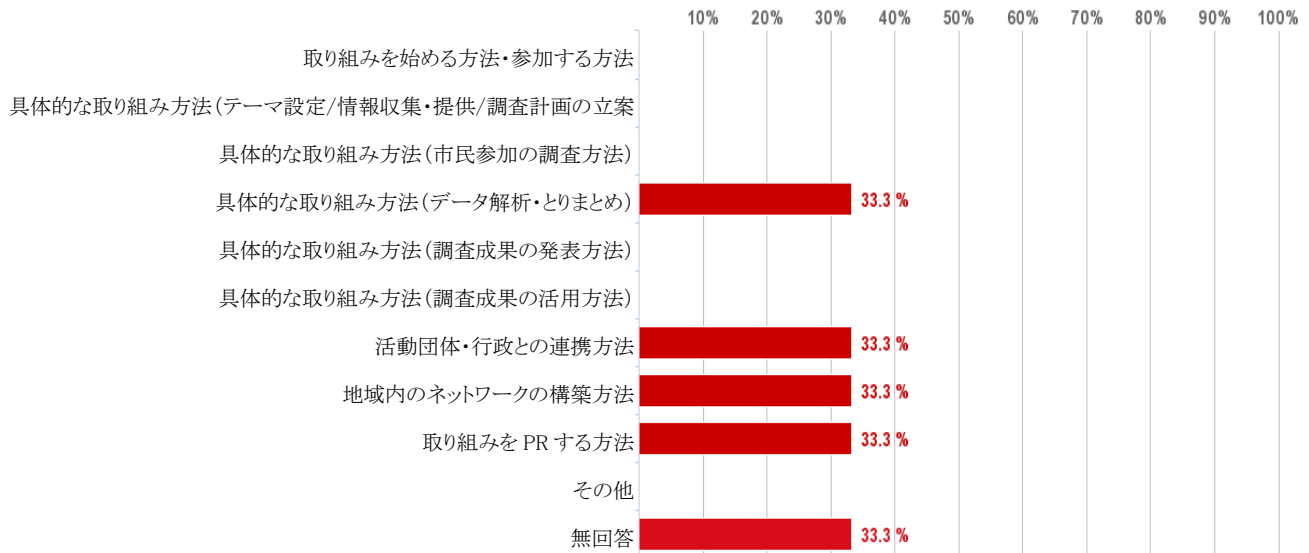
活動団体 (NPO 等) (n=8)



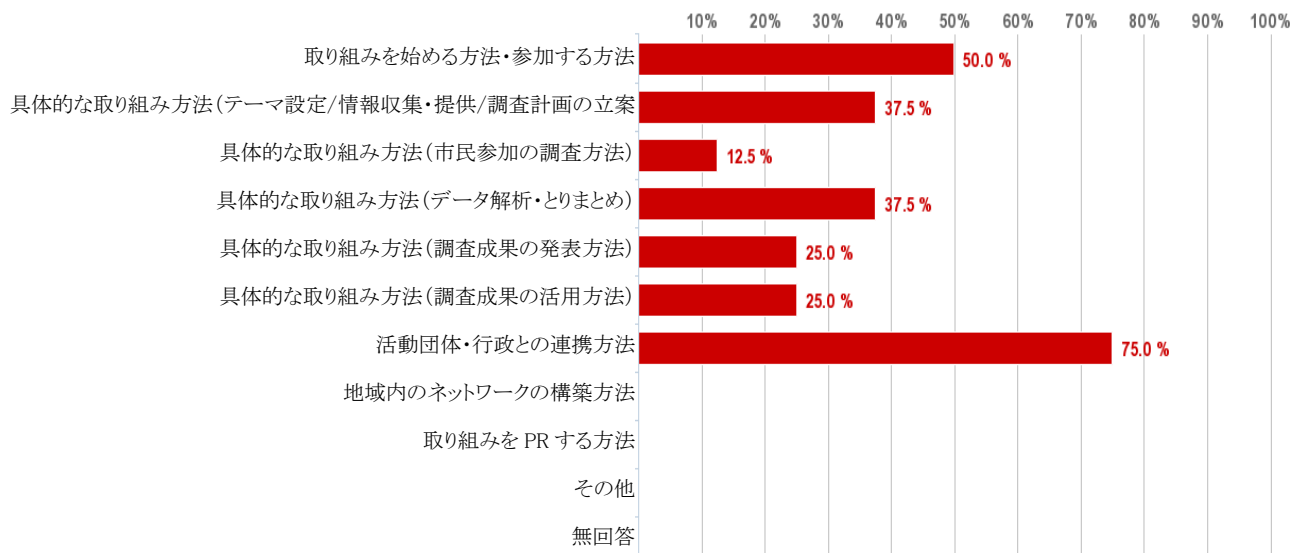
行政 (n=23)



大学・研究機関 (n=3)



企業 (n=8)



ご意見・取り組みたいテーマなど

- ・市民の立場として市民科学の普及、進展は大いに期待していると同時に、行政サイドの反応、取り組みはどのようなものなのでしょうか。気になるところです。
- ・下水は浄化槽と含めて表さないといけません。埼玉県内に50万基（戸数）が浄化槽である。将来とも下水道事業は計画しないところ多数あり。
- ・排水マナーの向上がポイントです。このテーマでの活動発表、ブース、資料は全くない。
- ・放流水質と流域環境（魚、水草、昆虫）
- ・協働テーマを設定することが難しいと感じている。下水道の大切さを市民に伝えることも大切だが、市民発意による環境への取り組みをうまく引き出すことができればと考える。
- ・綾瀬川の水収支（夏・冬）。再生水が入っている元荒川との比較、下水処理水の水系による水質の違い、植物の接触浄化による効果の検証。
- ・下水道の市民科学は、市民参加、市民納得の広報の有力な1つの手段と思った。下水道への理解が深まれば、受益者負担金や下水道使用料（値上げ）への理解の基になると思う。
- ・いろんな形の市民科学は下水道の理解につながる。トンボの話のように小さい子供たちと一緒に活動することは結果として理解者を増す、すばらしいと感じた。
- ・下水水質と鮎
- ・新河岸川や目黒川、落合川における鮎の産卵環境の調査に取り組みたいと考えている。

表(1) アンケート調査の回答結果一覧

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q8FA	Q9	Q9.2	Q9.3	Q9.4	Q9.5	Q9.5FA	Q4	Q5.1	Q5.2	Q5.3	Q5.4	Q5.5	Q5.6	Q5.7	Q5.7FA
本シンポジウムに参加されて、全体的な感想はいかがでしたか	(Q4で「(とても)良かった」と答えた方) どの点がよかったですか。(複数回答可)								(Q4で「(あまり)良くなかった」と答えた方) どの点がよくなかったか。(複数回答可)							(Q4で「(とても)思った」と答えた方) どの点で取り組みたい・参加してみたいと思いますか。(複数回答可)							
1	良かった		行政と市民や活動団体との連携の重要性が理解できた												思った								
2	とても良かった	今、なぜ市民科学なのかを理解できた	行政と市民や活動団体との連携の重要性が理解できた		市民科学の取り組みが良かった	下水道の見える化に市民科学が有効なことがわかった	市民科学で地域活動の幅が広がることがわかった								とても思った	地域づくりや身近な環境の課題解決につながるから	新たな学びや視点を発見する機会になるから	下水道の見える化に有効だから	地域での活動を広げられるから				
3	良かった														思った	地域づくりや身近な環境の課題解決につながるから	新たな学びや視点を発見する機会になるから	下水道の見える化に有効だから	地域での活動を広げられるから	地域の多様な組織との新たなつながりが生まれるから	行政と市民や活動団体との連携関係を構築できるから		
4	とても良かった		行政と市民や活動団体との連携の重要性が理解できた	地域づくり・まちづくりを考えるきっかけになった		下水道の見える化に市民科学が有効なことがわかった	市民科学で地域活動の幅が広がることがわかった								とても思った	地域づくりや身近な環境の課題解決につながるから	新たな学びや視点を発見する機会になるから	下水道の見える化に有効だから	地域での活動を広げられるから	地域の多様な組織との新たなつながりが生まれるから	行政と市民や活動団体との連携関係を構築できるから		
5	良かった						市民科学で地域活動の幅が広がることがわかった								思った	地域づくりや身近な環境の課題解決につながるから							
6	良かった				市民科学の取り組みが良かった																		
7	良かった					下水道の見える化に市民科学が有効なことがわかった	市民科学で地域活動の幅が広がることがわかった								思った							行政と市民や活動団体との連携関係を構築できるから	
8	あまり良くなかった								主旨が伝わってこなかった		市民科学の取り組みがよくなかった	進行や運営が良くなかった			あまり思わなかった								
9	良かった					下水道の見える化に市民科学が有効なことがわかった	市民科学で地域活動の幅が広がることがわかった								思った		新たな学びや視点を発見する機会になるから		地域での活動を広げられるから				
10	良かった	今、なぜ市民科学なのかを理解できた													思った			下水道の見える化に有効だから					
11	とても良かった	今、なぜ市民科学なのかを理解できた	行政と市民や活動団体との連携の重要性が理解できた		市民科学の取り組みが良かった	下水道の見える化に市民科学が有効なことがわかった	市民科学で地域活動の幅が広がることがわかった	進行や運営が良かった							思った	地域づくりや身近な環境の課題解決につながるから	新たな学びや視点を発見する機会になるから	下水道の見える化に有効だから		地域の多様な組織との新たなつながりが生まれるから			
12	良かった		行政と市民や活動団体との連携の重要性が理解できた												思った	地域づくりや身近な環境の課題解決につながるから					行政と市民や活動団体との連携関係を構築できるから		
13	良かった		行政と市民や活動団体との連携の重要性が理解できた	地域づくり・まちづくりを考えるきっかけになった											思った	地域づくりや身近な環境の課題解決につながるから				地域の多様な組織との新たなつながりが生まれるから			
14	とても良かった	今、なぜ市民科学なのかを理解できた	行政と市民や活動団体との連携の重要性が理解できた			下水道の見える化に市民科学が有効なことがわかった	市民科学で地域活動の幅が広がることがわかった								思った	地域づくりや身近な環境の課題解決につながるから		下水道の見える化に有効だから	地域での活動を広げられるから	地域の多様な組織との新たなつながりが生まれるから			
15	とても良かった				市民科学の取り組みが良かった	下水道の見える化に市民科学が有効なことがわかった									思った	地域づくりや身近な環境の課題解決につながるから				地域の多様な組織との新たなつながりが生まれるから			
16	良かった														思った								
17	良かった	今、なぜ市民科学なのかを理解できた	行政と市民や活動団体との連携の重要性が理解できた			下水道の見える化に市民科学が有効なことがわかった									思った		新たな学びや視点を発見する機会になるから	下水道の見える化に有効だから		地域の多様な組織との新たなつながりが生まれるから	行政と市民や活動団体との連携関係を構築できるから		
18	良かった		行政と市民や活動団体との連携の重要性が理解できた			下水道の見える化に市民科学が有効なことがわかった	市民科学で地域活動の幅が広がることがわかった								思った		新たな学びや視点を発見する機会になるから	下水道の見える化に有効だから		地域の多様な組織との新たなつながりが生まれるから			
19	良かった				市民科学の取り組みが良かった		市民科学で地域活動の幅が広がることがわかった								とても思った					地域の多様な組織との新たなつながりが生まれるから	行政と市民や活動団体との連携関係を構築できるから		

表(2) アンケート調査の回答結果一覧

Q6_1	Q6_2	Q6_3	Q6_4	Q6_5	Q6_6	Q6_7	Q6_8	Q6_9	Q6_9FA	Q7_1	Q7_2	Q7_3	Q7_4	Q7_5	Q7_6	Q7_7	Q7_8	Q7_9	Q7_10	Q7_11	Q7_12	Q7_13	Q7_14	Q7_14FA	
(Q4で「(あまり)思わなかった」と答えた方) どんな点で取り組みたい・参加してみたいと思わなかったですか。(複数回答可)										(全員) 「下水道の市民科学」に取り組む・参加する上で支援が必要だと思えることはありますか。どんな点ですか。(複数回答可)															
1										取り組みを始めるきっかけづくり	連携できる行政、活動団体の情報提供	技術面での支援(研究テーマ設定)					大学・研究機関の紹介			調査活動に参加する市民への呼びかけ					
2											連携できる行政、活動団体の情報提供	技術面での支援(情報収集・提供)		技術面での支援(調査方法の指導)	技術面での支援(データ解析とまとめ・発表)	調査実施に関する情報提供	大学・研究機関の紹介			取り組みをコーディネートできる人材の派遣	調査活動に参加する市民への呼びかけ	費用面のサポート			
3															技術面での支援(データ解析とまとめ・発表)		大学・研究機関の紹介			調査活動に参加する市民への呼びかけ	費用面のサポート				
4											連携できる行政、活動団体の情報提供	技術面での支援(情報収集・提供)				調査実施に関する情報提供				調査活動に参加する市民への呼びかけ	費用面のサポート	施設、機材等の提供			
5										取り組みを始めるきっかけづくり	連携できる行政、活動団体の情報提供	技術面での支援(情報収集・提供)													
6																				取り組みをコーディネートできる人材の派遣	費用面のサポート				
7												技術面での支援(研究テーマ設定)					調査実施に関する情報提供			取り組みをコーディネートできる人材の派遣					
8			連携できる行政、活動団体がいない																				その他	地域、水系くらいの単位で取り組む	
9										取り組みを始めるきっかけづくり										調査活動に参加する市民への呼びかけ	費用面のサポート	施設、機材等の提供			
10												技術面での支援(研究テーマ設定)								取り組みをコーディネートできる人材の派遣					
11										取り組みを始めるきっかけづくり	連携できる行政、活動団体の情報提供	技術面での支援(研究テーマ設定)	技術面での支援(情報収集・提供)	技術面での支援(調査計画の立案)	技術面での支援(調査方法の指導)		調査実施に関する情報提供					費用面のサポート			
12											連携できる行政、活動団体の情報提供										費用面のサポート	施設、機材等の提供			
13										取り組みを始めるきっかけづくり		技術面での支援(研究テーマ設定)	技術面での支援(情報収集・提供)	技術面での支援(調査計画の立案)	技術面での支援(調査方法の指導)					取り組みをコーディネートできる人材の派遣					
14															技術面での支援(データ解析とまとめ・発表)	調査実施に関する情報提供					費用面のサポート	施設、機材等の提供			
15																					費用面のサポート	施設、機材等の提供			
16											連携できる行政、活動団体の情報提供														
17												技術面での支援(研究テーマ設定)					大学・研究機関の紹介			取り組みをコーディネートできる人材の派遣	調査活動に参加する市民への呼びかけ	費用面のサポート	施設、機材等の提供		
18													技術面での支援(調査計画の立案)		技術面での支援(データ解析とまとめ・発表)	調査実施に関する情報提供					費用面のサポート				
19															技術面での支援(データ解析とまとめ・発表)					調査活動に参加する市民への呼びかけ	費用面のサポート	施設、機材等の提供			

表 (3) アンケート調査の回答結果一覧

Q8_1	Q8_2	Q8_3	Q8_4	Q8_5	Q8_6	Q8_7	Q8_8	Q8_9	Q8_10	Q8_10FA	Q9_1	Q9_2	Q9_3	Q9_4	Q9_5	Q9_6	Q9_7	Q9_8	Q9_9	Q9_10	Q9_10FA	Q10	Q11	Q12	
(全員) 下水道の市民科学を構成する主な取り組みのうち、既に行っている取り組みはありますか。(複数回答可)											(全員) 「下水道の市民科学」のどんなところをより深く知りたいと思いますか。(複数回答可)											性別	年齢	所属	
1					調査成果の活用																		男性	50代	
2	調査研究の企画(下水道に関連するもの)				調査成果の発表		行政や活動団体が実施する調査への参加	行政や市民、活動団体との連携した取組										活動団体・行政との連携方法	地域内のネットワークの構築方法	取り組みをPRする方法			男性	50代	大学・研究機関
3		調査研究の企画(下水道以外)	調査を行い、データを収集する		調査成果の発表		行政や活動団体が実施する調査への参加	行政や市民、活動団体との連携した取組						具体的な取り組み方法(データ解析・とりまとめ)				活動団体・行政との連携方法					男性	40代	活動団体(NPO等)
4			調査を行い、データを収集する	データの解析・とりまとめ														具体的な取り組み方法(調査成果の活用方法)		取り組みをPRする方法			女性	70代	活動団体(NPO等)
5	調査研究の企画(下水道に関連するもの)				調査成果の発表						取り組みを始める方法・参加する方法												男性	50代	行政(武蔵野市)
6								行政や市民、活動団体との連携した取組																30代	行政
7		調査研究の企画(下水道以外)									具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)							具体的な取り組み方法(調査成果の活用方法)	活動団体・行政との連携方法				男性	60代	活動団体(NPO等)
8									その他	排水処理(浄化槽を平行的に)									地域内のネットワークの構築方法				男性	70代	活動団体(NPO等)
9	調査研究の企画(下水道以外)	調査を行い、データを収集する	データの解析・とりまとめ	調査成果の発表								具体的な取り組み方法(市民参加の調査方法)		具体的な取り組み方法(調査成果の発表方法)	具体的な取り組み方法(調査成果の活用方法)								男性	60代	活動団体(NPO等)
10			データの解析・とりまとめ																				男性	70代	大学・研究機関
11											具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)	具体的な取り組み方法(市民参加の調査方法)	具体的な取り組み方法(データ解析・とりまとめ)					活動団体・行政との連携方法	地域内のネットワークの構築方法				男性	50代	行政(栃木県)
12																							男性	70代	活動団体(NPO等)
13											取り組みを始める方法・参加する方法												男性	30代	行政
14		調査を行い、データを収集する	データの解析・とりまとめ	調査成果の発表			行政や市民、活動団体との連携した取組											具体的な取り組み方法(調査成果の活用方法)					男性	50代	その他
15					調査成果の活用																		女性		
16											取り組みを始める方法・参加する方法														
17	調査研究の企画(下水道以外)	調査を行い、データを収集する	データの解析・とりまとめ	調査成果の発表	調査成果の活用	行政や活動団体が実施する調査への参加	行政や市民、活動団体との連携した取組					具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)						活動団体・行政との連携方法	地域内のネットワークの構築方法				男性	50代	行政
18											具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)		具体的な取り組み方法(データ解析・とりまとめ)					活動団体・行政との連携方法					男性	60代	企業
19	調査研究の企画(下水道に関連するもの)	調査研究の企画(下水道以外)	調査を行い、データを収集する	データの解析・とりまとめ	調査成果の発表	調査成果の活用	行政や活動団体が実施する調査への参加	行政や市民、活動団体との連携した取組				具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)		具体的な取り組み方法(データ解析・とりまとめ)					地域内のネットワークの構築方法				女性	60代	活動団体(NPO等)

表(5) アンケート調査の回答結果一覧

Q4で「(とても)思った」と答えた方	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q9FA	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q14FA		
(Q4で「(あまり)思わなかった」と答えた方) どんな点で取り組みたい・参加してみたいと思わなかったですか。(複数回答可)	(全員) 「下水道の市民科学」に仕組み・参加する上で支援が必要だと思うことはありますか。どんな点ですか。(複数回答可)																										
20	市民科学の有効性がよくわからない											取り組み始めるきっかけづくり															
21																		技術面での支援(調査方法の指導)									
22																						取り組みをコーディネートできる人材の派遣	調査活動に参加する市民への呼びかけ	費用面のサポート			
23																						調査実施に関する情報提供	大学・研究機関の紹介				
24											取り組み始めるきっかけづくり																
25																											
26											取り組み始めるきっかけづくり																
27											取り組み始めるきっかけづくり																
28	市民科学の有効性がよくわからない	市民科学の取り組み方がよくわからない																									
29											取り組み始めるきっかけづくり																
30											取り組み始めるきっかけづくり																
31											取り組み始めるきっかけづくり																
32											取り組み始めるきっかけづくり																
33																											
34											取り組み始めるきっかけづくり																
35																											
36																											

表(6) アンケート調査の回答結果一覧

Q8_1	Q8_2	Q8_3	Q8_4	Q8_5	Q8_6	Q8_7	Q8_8	Q8_9	Q8_10	Q8_10FA	Q9_1	Q9_2	Q9_3	Q9_4	Q9_5	Q9_6	Q9_7	Q9_8	Q9_9	Q9_10	Q9_10FA	Q10	Q11	Q12		
(全員) 下水道の市民科学を構成する主な取り組みのうち、既に行っている取り組みはありますか。(複数回答可)											(全員) 「下水道の市民科学」のどんなところをより深く知りたいと思いますか。(複数回答可)											性別	年齢	所属		
20																		地域内のネットワークの構築方法					男性	70代	活動団体(NPO等)	
21																										
22																			取り組みをPRする方法					女性	20代	行政
23											取り組みを始める方法・参加する方法													男性	50代	行政
24											取り組みを始める方法・参加する方法								活動団体・行政との連携方法	地域内のネットワークの構築方法				男性	40代	行政
25											具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)	具体的な取り組み方法(市民参加の調査方法)	具体的な取り組み方法(データと解析・まとめ)	具体的な取り組み方法(調査成果の発表方法)	具体的な取り組み方法(調査成果の活用方法)				活動団体・行政との連携方法					男性	60代	企業
26																								男性	50代	行政(宇治市)
27											具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)									地域内のネットワークの構築方法				男性	40代	行政
28											具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)													男性	20代	
29																			活動団体・行政との連携方法	地域内のネットワークの構築方法				男性	20代	行政
30											取り組みを始める方法・参加する方法								活動団体・行政との連携方法					男性	50代	
31																									50代	行政
32	調査研究の企画(下水道に関連するもの)										取り組みを始める方法・参加する方法													男性	60代	企業
33											具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)								活動団体・行政との連携方法					男性	50代	行政
34																			活動団体・行政との連携方法					男性	60代	企業
35											取り組みを始める方法・参加する方法													男性	40代	行政
36										その他	行政と高校の授業の連結(県立大師高校)								活動団体・行政との連携方法					男性	30代	行政

表(8) アンケート調査の回答結果一覧

Q6_1	Q6_2	Q6_3	Q6_4	Q6_5	Q6_6	Q6_7	Q6_8	Q6_9	Q6_9FA	Q7_1	Q7_2	Q7_3	Q7_4	Q7_5	Q7_6	Q7_7	Q7_8	Q7_9	Q7_10	Q7_11	Q7_12	Q7_13	Q7_14	Q7_14FA		
(Q4で「(あまり)思わなかった」と答えた方) どの点で取り組みたい・参加してみたいと思わなかったですか。(複数回答可)										(全員) 「下水道の市民科学」に取り組み・参加する上で支援が必要だと思うことはありますか。 どの点ですか。(複数回答可)																
37										取り組みを始めるきっかけづくり															調査活動に参加する市民への呼びかけ	
38																	大学・研究機関の紹介		取り組みをコーディネートできる人材の派遣						調査活動に参加する市民への呼びかけ	
39												技術面での支援(研究テーマ設定)	技術面での支援(情報収集・提供)												費用面のサポート	
40										取り組みを始めるきっかけづくり																
41										連携できる行政、活動団体の情報提供	技術面での支援(研究テーマ設定)	技術面での支援(情報収集・提供)						調査実施に関する情報提供								
42										取り組みを始めるきっかけづくり	連携できる行政、活動団体の情報提供	技術面での支援(研究テーマ設定)	技術面での支援(情報収集・提供)	技術面での支援(調査計画の立案)	技術面での支援(調査方法の指導)	技術面での支援(データ解析とまとめ・発表)	調査実施に関する情報提供		取り組みをコーディネートできる人材の派遣		調査活動に参加する市民への呼びかけ	費用面のサポート		施設、機材等の提供		
43										取り組みを始めるきっかけづくり		技術面での支援(研究テーマ設定)	技術面での支援(情報収集・提供)	技術面での支援(調査計画の立案)	技術面での支援(調査方法の指導)	技術面での支援(データ解析とまとめ・発表)										
44										取り組みを始めるきっかけづくり	連携できる行政、活動団体の情報提供									取り組みをコーディネートできる人材の派遣						
45										取り組みを始めるきっかけづくり	連携できる行政、活動団体の情報提供	技術面での支援(研究テーマ設定)	技術面での支援(情報収集・提供)	技術面での支援(調査計画の立案)	技術面での支援(調査方法の指導)	技術面での支援(データ解析とまとめ・発表)	大学・研究機関の紹介								費用面のサポート	施設、機材等の提供
46										取り組みを始めるきっかけづくり	技術面での支援(研究テーマ設定)	技術面での支援(情報収集・提供)	技術面での支援(調査計画の立案)	技術面での支援(調査方法の指導)	技術面での支援(データ解析とまとめ・発表)		大学・研究機関の紹介								調査活動に参加する市民への呼びかけ	費用面のサポート
47										取り組みを始めるきっかけづくり	連携できる行政、活動団体の情報提供														取り組みをコーディネートできる人材の派遣	
48																									取り組みをコーディネートできる人材の派遣	
49				時間的な余裕がない		解析・発表まで取り組むと負担が大きくなる				取り組みを始めるきっかけづくり	連携できる行政、活動団体の情報提供														取り組みをコーディネートできる人材の派遣	調査活動に参加する市民への呼びかけ
50	市民科学の有効性がよくわからない							その他	学者、教授の総取りという認識がある。全てにおいて(成果を含め)がラウンディングなら意義がある。何かを始めたい(処理場の完成等)ときに同時にアクションをとることで、行政・市民の意義の高揚と関わり協働の高まりが得られるだろう。フェアにとりくんで、																費用面のサポート	
51										取り組みを始めるきっかけづくり																調査活動に参加する市民への呼びかけ
52				時間的な余裕がない	仲間・組織の理解が得られない					取り組みを始めるきっかけづくり	連携できる行政、活動団体の情報提供															

表(9) アンケート調査の回答結果一覧

Q8_1	Q8_2	Q8_3	Q8_4	Q8_5	Q8_6	Q8_7	Q8_8	Q8_9	Q8_10	Q8_10FA	Q9_1	Q9_2	Q9_3	Q9_4	Q9_5	Q9_6	Q9_7	Q9_8	Q9_9	Q9_10	Q9_10FA	Q10	Q11	Q12	
(全員) 下水道の市民科学を構成する主な取り組みのうち、既に行っている取り組みはありますか。(複数回答可)											(全員) 「下水道の市民科学」のどんなところをより深く知りたいと思いますか。(複数回答可)											性別	年齢	所属	
37																									
38							行政や市民、活動団体との連携した取組				取り組みを始める方法・参加する方法	具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)					活動団体・行政との連携方法	地域内のネットワークの構築方法					男性	40代	行政(堺市)
39														具体的な取り組み方法(データ解析・とりまとめ)									男性	40代	大学・研究機関
40	調査研究の企画(下水道に関連するもの)										取り組みを始める方法・参加する方法												男性	20代	行政
41											取り組みを始める方法・参加する方法	具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)				具体的な取り組み方法(調査成果の活用方法)							男性	20代	学生
42												具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)					活動団体・行政との連携方法						女性	40代	行政
43											取り組みを始める方法・参加する方法	具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)		具体的な取り組み方法(データ解析・とりまとめ)									女性	30代	行政
44											取り組みを始める方法・参加する方法	具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)	具体的な取り組み方法(市民参加の調査方法)										男性	30代	行政(沖縄県)
45											取り組みを始める方法・参加する方法						活動団体・行政との連携方法						男性	50代	企業
46											具体的な取り組み方法(テーマ設定/情報収集・提供/調査計画の立案)		具体的な取り組み方法(データ解析・とりまとめ)	具体的な取り組み方法(調査成果の発表方法)	具体的な取り組み方法(調査成果の活用方法)		活動団体・行政との連携方法						男性	50代	企業
47												具体的な取り組み方法(市民参加の調査方法)					活動団体・行政との連携方法						男性	30代	行政
48																							男性	40代	行政
49											取り組みを始める方法・参加する方法												男性	60代	企業
50																									
51																	活動団体・行政との連携方法						男性	50代	行政
52											取り組みを始める方法・参加する方法						活動団体・行政との連携方法						男性	20代	企業